

RX210グループ

初期設定例

要旨

本アプリケーションノートでは、ヘッダファイルで選択する使用条件に応じて、RX210 グループ のクロックの設定やリセット後に動作している周辺機能の停止、存在しないポートの設定など、リセット後に必要な設定について説明します。

対象デバイス

・ RX210グループ	145、144 ピン版	ROM 容量 : 128KB~1MB
・ RX210グループ	100 ピン版	ROM 容量 : 128KB~1MB
・ RX210グループ	80 ピン版	ROM 容量 : 64KB~512KB
・ RX210グループ	69 ピン版	ROM 容量 : 128KB~256KB
・ RX210グループ	64 ピン版	ROM 容量 : 64KB~512KB
・ RX210グループ	48 ピン版	ROM 容量 : 64KB~256KB

本アプリケーションノートを他のマイコンへ適用する場合、そのマイコンの仕様にあわせて変更し、十分評価してください。

目次

1. 仕様	3
1.1 リセット後に動作している周辺機能の停止	3
1.2 存在しないポートの設定	3
1.3 クロックの設定	4
1.3.1 概要	4
1.3.2 サンプルコードで想定しているクロックの仕様	4
1.3.3 クロックの選択	5
2. 動作確認条件	6
3. ソフトウェア説明	7
3.1 リセット後に動作している周辺機能の停止	7
3.2 存在しないポートの設定	8
3.2.1 処理概要	8
3.2.2 ピン数の選択方法	9
3.3 クロックの設定	10
3.3.1 クロックの設定手順	10
3.3.2 各クロックの発振安定待機時間の考え方	11
3.4 ファイル構成	15
3.5 オプション設定メモリ	15
3.6 定数一覧	16
3.7 関数一覧	24
3.8 関数仕様	25
3.9 フローチャート	29
3.9.1 メイン処理	29
3.9.2 リセット後に動作している周辺機能の停止	29
3.9.3 存在しないポートの初期設定	30
3.9.4 クロック初期設定	31
3.9.5 メインクロックの発振設定	33
3.9.6 PLLクロックの発振設定	33
3.9.7 HOCOクロックの発振設定	34
3.9.8 サブクロックの発振設定	35
3.9.9 サブクロックの停止設定	36
3.9.10 CMT0によるソフトウェアウェイト	37
4. 付録	38
4.1 クロックの発振安定待機時間の考え方	38
4.1.1 メインクロックの発振安定を待たずにPLLの発振を行う場合	38
5. サンプルコード	39
6. 参考ドキュメント	39

1. 仕様

リセット後に動作している周辺機能の停止、存在しないポートの設定、クロックの設定を行います。本アプリケーションノートでは、電源投入時(コールドスタート時)の処理を想定しています。

1.1 リセット後に動作している周辺機能の停止

周辺機能によっては、電源投入後から動作しているものや、モジュールストップ機能が無効になっているものがあります。この項目に該当する処理として、

- ・DMAC、DTC、RAM0、RAM1 の機能を停止する処理

を用意しています。なお、サンプルコードでは上記の処理は実行させていません。必要に応じて定数を書き換えて、処理を実行させてください。

1.2 存在しないポートの設定

端子数が 144 ピン未満の製品では、端子に接続されていないポートを出力に設定する必要があります。サンプルコードでは、端子数が 100 ピンの製品に合わせて初期値を設定しています。お使いの製品に応じて定数を書き換えてください。

1.3 クロックの設定

1.3.1 概要

クロックの設定は、下記の手順で行います。

- (1) サブクロック設定
- (2) メインクロック設定
- (3) PLL クロック設定
- (4) HOCO クロック設定
- (5) システムクロックの切り替え

本アプリケーションノートでは、`r_init_clock.h` で定義している定数を変更することで、各クロックの設定内容を切り替えます。

サンプルコードでは、システムクロックを PLL クロックとし、サブクロックを使用しない処理を実行させています。必要に応じて定数を書き換えて、使用するクロックを選択してください。

1.3.2 サンプルコードで想定しているクロックの仕様

表1.1にサンプルコードで想定しているクロックの仕様を示します。この表に記載している仕様の発振子に合わせて、発振安定待機時間などを算出しています。

表1.2に使用する周辺機能と用途を示します。

表1.1 サンプルコードで想定しているクロックの仕様

クロック	発振周波数	発振安定時間	備考
メインクロック発振子	20MHz	4.2ms (注 2)	水晶
サブクロック発振子	32.768kHz (注 1)	1.3s (注 2)	低 CL 用
PLL クロック	100MHz (メインクロック 2 分周 10 通倍)	最大 500μs (注 3)	
HOCO クロック	50MHz (注 1)	最大 175μs (注 3)	

注1. サンプルコードでは発振を停止させています。

注2. 発振子の発振安定時間は実際のシステムにおける配線パターン、発振定数などの条件により異なります。発振安定時間は、お客様が実際に使用されるシステムの評価を発振子メーカーに依頼して入手してください。

注3. ユーザーズマニュアル ハードウェア編の「電気的特性」を参照してください。

表1.2 使用する周辺機能と用途

周辺機能	用途
コンペアマッチタイマ チャンネル 0 (以下、CMT0)	クロック発振安定待機時間の測定(注 1)

注1. OS を使用する場合は、OS が使用しないタイマのチャンネルを選択してください。

1.3.3 クロックの選択

サンプルコードでは、`r_init_clock.h` で定義している定数を変更することで、システムクロックのクロックソース、各クロックの発振/停止などを選択できます。変更可能な定数は、表3.11、表3.12のサンプルコードで使用する定数(ユーザ変更可)を参照してください。

表1.3にクロックの選択例を示します。サンプルコードでは、システムクロックをPLLとし、サブクロックを使用しない処理(No.1)を選択しています。

表1.3 クロックの選択例

No	1	2	3	4	5	6
システムクロック	PLL	PLL	HOCO	HOCO	メインクロック	メインクロック
PLL クロック	発振	発振	停止	停止	停止	停止
メインクロック	発振	発振	停止	停止	発振	発振
HOCO クロック	停止	停止	発振 (50MHz)	発振 (50MHz)	停止	停止
サブクロック (注 2)	停止	発振 (RTC 使用)	停止	発振 (RTC 使用)	停止	発振 (RTC 使用)
動作モード	高速動作 モード	高速動作 モード	高速動作 モード	高速動作 モード	中速動作 モード 1A	中速動作 モード 1A
定数	SEL_SYSCCLK	CLK_PLL	CLK_PLL	CLK_HOCO	CLK_HOCO	CLK_MAIN
	SEL_PLL	B_USE	B_USE	B_NOT_USE	B_NOT_USE	B_NOT_USE
	SEL_MAIN	B_USE	B_USE	B_NOT_USE	B_NOT_USE	B_USE
	SEL_HOCO	B_NOT_USE	B_NOT_USE	B_USE	B_USE	B_NOT_USE
	SEL_SUB (注 1)	B_NOT_USE	B_NOT_USE	B_NOT_USE	B_NOT_USE	B_NOT_USE
	SEL_RTC (注 1)	B_NOT_USE	B_USE	B_NOT_USE	B_USE	B_USE
	REG_OPCCR	OPCM_HIGH	OPCM_HIGH	OPCM_HIGH	OPCM_HIGH	OPCM_MID_1A

注1. システムクロックとしてサブクロックを発振させる場合は、SEL_SUB を B_USE (使用する)に、RTC のカウントソースとしてサブクロックを発振させる場合は、SEL_RTC を B_USE に設定してください。

SEL_SUB または SEL_RTC のどちらか、または両方を B_USE に設定すると、サブクロックが発振します。

注2. サブクロックの発振は、SOSCCR.SOSTP ビット (サブクロックをシステムクロックとして使用する場合に制御)、RCR3.RTCEN ビット (サブクロックを RTC のカウントソースとして使用する場合に制御) の両方で制御されます。そのため、サブクロックをシステムクロックとして使用するか否かで、サブクロックの初期設定処理が変わります。また、サブクロックは電源投入時から発振を開始しています。そのため、サブクロックを使用しない場合でもサブクロックを停止する処理を行います。

2. 動作確認条件

本アプリケーションノートのサンプルコードは、下記の条件で動作を確認しています。

表2.1 動作確認条件

項目		内容
使用マイコン		R5F5210BBDFP (RX210 グループ)
動作 周波数	システムクロックに PLL を 選択した場合 (表1.3の No.1,No2)	- メインクロック: 20MHz - サブクロック: 32.768kHz (使用しないを選択した場合は停止) - PLL: 100MHz (メインクロック 2 分周 10 通倍) - HOCO: 停止 - システムクロック(ICLK): 50MHz (PLL 2 分周) - 周辺モジュールクロック B (PCLKB): 25MHz (PLL 4 分周) - 周辺モジュールクロック D (PCLKD): 50MHz (PLL 2 分周) - 外部バスクロック(BCLK): 25MHz(PLL 4 分周) - FlashIF クロック(FCLK): 25MHz(PLL 4 分周)
	システムクロックに HOCO を 選択した場合 (表1.3の No.3,No4)	- メインクロック: 停止 - サブクロック: 32.768kHz (使用しないを選択した場合は停止) - PLL: 停止 - HOCO: 50MHz - システムクロック(ICLK): 50MHz (HOCO 1 分周) - 周辺モジュールクロック B (PCLKB): 25MHz (HOCO 2 分周) - 周辺モジュールクロック D (PCLKD): 50MHz (HOCO 1 分周) - 外部バスクロック(BCLK): 25MHz(HOCO 2 分周) - FlashIF クロック(FCLK): 25MHz(HOCO 2 分周)
	システムクロックに メインクロックを 選択した場合 (表1.3の No.5,No6)	- メインクロック: 20MHz - サブクロック: 32.768kHz (使用しないを選択した場合は停止) - PLL: 停止 - HOCO: 停止 - システムクロック(ICLK): 20MHz (メインクロック 1 分周) - 周辺モジュールクロック B (PCLKB): 20MHz (メインクロック 1 分周) - 周辺モジュールクロック D (PCLKD): 20MHz (メインクロック 1 分周) - 外部バスクロック(BCLK): 20MHz(メインクロック 1 分周) - FlashIF クロック(FCLK): 20MHz(メインクロック 1 分周)
動作電圧		5.0V
統合開発環境		ルネサスエレクトロニクス製 e ² studio Version: 2021-01
C コンパイラ		ルネサスエレクトロニクス製 C/C++ Compiler Package for RX Family V3.02 コンパイルオプション統合開発環境のデフォルト設定を使用しています
iodefine.h のバージョン		Version 1.4
エンディアン		リトルエンディアン
動作モード		シングルチップモード
プロセッサモード		スーパバイザモード
サンプルコードのバージョン		Version 2.21
使用ボード		Renesas Starter Kit for RX210 (製品型名: R0K505210C002BE)

3. ソフトウェア説明

リセット後に動作している周辺機能の停止、存在しないポートの設定を行ったのち、クロックの設定を行います。

3.1 リセット後に動作している周辺機能の停止

リセット後に動作している周辺機能の停止を行います。

リセット解除後、以下の周辺モジュールに限り、モジュールストップ状態が解除されています。モジュールストップ状態へ遷移する場合は、モジュールストップビットを“1” (モジュールストップ状態へ遷移)に設定してください。このモジュールストップを行うことで消費電力を低減できます。

サンプルコードでは定数「MSTP_STATE_対象モジュール名」の値を“0 (MODULE_STOP_DISABLE)”とし、対象モジュールはモジュールストップ状態に遷移していません。使用するシステムに応じてモジュールストップ状態へ遷移したい場合は、r_init_stop_module.h の定数の値を“1 (MODULE_STOP_ENABLE)”に設定してください。

表3.1にリセット後にモジュールストップ状態が解除されている周辺モジュール一覧を示します。

表3.1 リセット後にモジュールストップ状態が解除されている周辺モジュール一覧

周辺モジュール	モジュールストップ設定ビット	リセット後の値	このモジュールを使用しない場合の設定
DMAC/DTC	MSTPCRA.MSTPA28 ビット	0 (モジュールストップ状態の解除)	1 (モジュールストップ状態へ遷移)
RAM0	MSTPCRC.MSTPC0 ビット		
RAM1	MSTPCRC.MSTPC1 ビット		

3.2 存在しないポートの設定

3.2.1 処理概要

144 ピン版未満の製品を使用する場合、存在しないポートの PDR レジスタの対応ビットを“1”(出力)に設定します。本関数をコールした後に、存在しないポートを含む PDR レジスタまたは PODR レジスタへバイト単位で書き込む場合、存在しないポートの方向制御ビットには“1”、ポート出力データ格納ビットには“0”を設定してください。

表3.2、表3.3に存在しないポート一覧を示します。

表3.2 存在しないポート一覧(1)

ポート シンボル	100 ピン版の製品	本数	80 ピン版の製品	本数
PORT0	P00~P02	3	P00~P02	3
PORT1	—	—	—	—
PORT2	—	—	P22~P25	4
PORT3	—	—	P33	1
PORT4	—	—	—	—
PORT5	P56	1	P50~P53、P56	4
PORT6	P60~P67	8	P60~P67	8
PORT7	P70~P77	8	P70~P77	8
PORT8	P80~P83、P86、P87	6	P80~P83、P86、P87	6
PORT9	P90~P93	4	P90~P93	4
PORTA	—	—	PA7	1
PORTB	—	—	—	—
PORTC	—	—	PC0、PC1	2
PORTD	—	—	PD3~PD7	5
PORTE	—	—	PE6、PE7	2
PORTF	PF5	1	PF5	1
PORTH	—	—	—	—
PORTJ	PJ5	1	PJ3、PJ5	2
PORTK	PK2~PK5	4	PK2~PK5	4
PORTL	PL0、PL1	2	PL0、PL1	2

表3.3 存在しないポート一覧(2)

ポート シンボル	69 ピン、64 ピン版の製品	本数	48 ピン版の製品	本数
PORT0	P00~P02、P07	4	P00~P03、P05、P07	6
PORT1	P12、P13	2	P12、P13	2
PORT2	P20~P25	6	P20~P25	6
PORT3	P33、P34	2	P32~P34	3
PORT4	P45、P47	2	P43~P45、P47	4
PORT5	P50~P53、P56	5	P50~P56	7
PORT6	P60~P67	8	P60~P67	8
PORT7	P70~P77	8	P70~P77	8
PORT8	P80~P83、P86、P87	6	P80~P83、P86、P87	6
PORT9	P90~P93	4	P90~P93	4
PORTA	PA2、PA5、PA7	3	PA0、PA2、PA5、PA7	4
PORTB	PB2、PB4	2	PB2、PB4、PB6、PB7	4
PORTC	PC0、PC1	2	PC0~PC3	4
PORTD	PD0~PD7	8	PD0~PD7	8
PORTE	PE6、PE7	2	PE0、PE5~PE7	4
PORTF	PF5	1	PF5	1
PORTH	—	—	—	—
PORTJ	PJ1、PJ3、PJ5	3	PJ1、PJ3、PJ5	3
PORTK	PK2~PK5	4	PK2~PK5	4
PORTL	PL0、PL1	2	PL0、PL1	2

3.2.2 ピン数の選択方法

サンプルコードでは、100 ピン版(PIN_SIZE=100)に設定しています。また、本アプリケーションノートで対応しているピン数は、145 ピン、144 ピン、100 ピン、80 ピン、69 ピン、64 ピン、48 ピンです。100 ピン以外の製品を使用する場合は、r_init_non_existent_port.h の PIN_SIZE を使用するピン数に変更してください。

3.3 クロックの設定

3.3.1 クロックの設定手順

表3.4にクロックの設定手順とそれぞれの処理内容、およびサンプルコードでの設定を示します。サンプルコードでは、メインクロック、PLL を動作させて、HOCO、サブクロックを停止させています。

表3.4 クロックの設定手順

手順	処理	処理内容		サンプルコードの設定
1	VRCCR レジスタ設定	電圧レギュレータ制御レジスタ (VRCCR) に “00h” を書き込みます。		VRCCR レジスタを設定
2	サブクロック設定(注 2)	使用しない	サブクロック制御回路の初期化を行います。	サブクロックを使用しない
		使用する	サブクロック制御回路の初期化、駆動能力の設定、およびサブクロックの出力を内部クロックに供給するまでの待機時間を SOSCWTCCR レジスタに設定してから、サブクロックを発振します。 その後、ソフトウェアによる発振安定待機時間待ち(注 1)を行います。	
3	メインクロック設定(注 2)	使用しない	設定は不要です。	メインクロックを使用する
		使用する	メインクロックのドライブ能力の設定、およびメインクロックの出力を内部クロックに供給するまでの待機時間を MOSCWTCR レジスタに設定してから、メインクロックを発振します。 その後、ソフトウェアによる発振安定待機時間待ち(注 1)を行います。	
4	PLL クロック設定(注 2)	使用しない	PLL の電源を OFF にします。(注 3)	PLL クロックを使用する
		使用する	PLL 入力分周比および周波数通倍率の設定、および PLL クロックの出力を内部クロックに供給するまでの待機時間を PLLWTCR に設定してから、PLL クロックを発振します。 その後、ソフトウェアによる発振安定待機時間待ち(注 1)を行います。	
5	HOCO クロック設定(注 2)	使用しない	HOCO の電源を OFF にします。	HOCO クロックを使用しない
		使用する	HOCO の周波数の設定、および HOCO クロックの出力を内部クロックに供給するまでの待機時間を HOCOWTCR2 レジスタに設定してから、HOCO クロックを発振します。 その後、ソフトウェアによる発振安定待機時間待ち(注 1)を行います。	
6	動作電力制御モード設定	使用する動作周波数、動作電圧に応じて、動作電力制御モードを設定します。		高速動作モードに設定
7	クロック分周比設定	クロック分周の変更を行います。		・ ICLK, PCLKD: 2 分周 ・ PCLKB, BCLK, FCLK: 4 分周 ・ BCLK: 出力停止
8	システムクロック切り替え	使用するシステムに応じて切り替えます。		PLL クロックに切り替え

注1. 各クロックの発振安定待機時間の考え方は「3.3.2 各クロックの発振安定待機時間の考え方」を参照してください。

注2. 各クロックを使用する／使用しないの選択は、必要に応じて r_init_clock.h の定数を変更してください。

注3. PLL 電源コントロールレジスタ (PLLPCR) はチップバージョン B のみ搭載されています。チップバージョン A または C を選択した場合は、PLL 電源 OFF の処理を行いません。

3.3.2 各クロックの発振安定待機時間の考え方

メインクロック、PLL クロック、サブクロック、HOCO クロックのウェイトコントロールレジスタおよび発振安定待機時間の考え方を示します。

3.3.2.1 メインクロックの発振安定待機時間の考え方

図3.1にメインクロックの発振安定待機時間の考え方、表3.5にメインクロックのウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値を示します。

メインクロックのウェイトコントロールレジスタ(MOSCWTCR)は「発振子メーカーが推奨するメインクロックの発振安定時間以上の値」を設定します。また、メインクロックの発振安定待機時間は「MOSCWTCR レジスタで設定したサイクル期間の 2 倍以上」を設定します。

サンプルコードで使用するメインクロックの発振安定時間は 4.2ms のため、サンプルコードでのウェイトコントロールレジスタ設定値は 0Dh (約 6.55ms)、発振安定待機時間は約 13.1ms です。

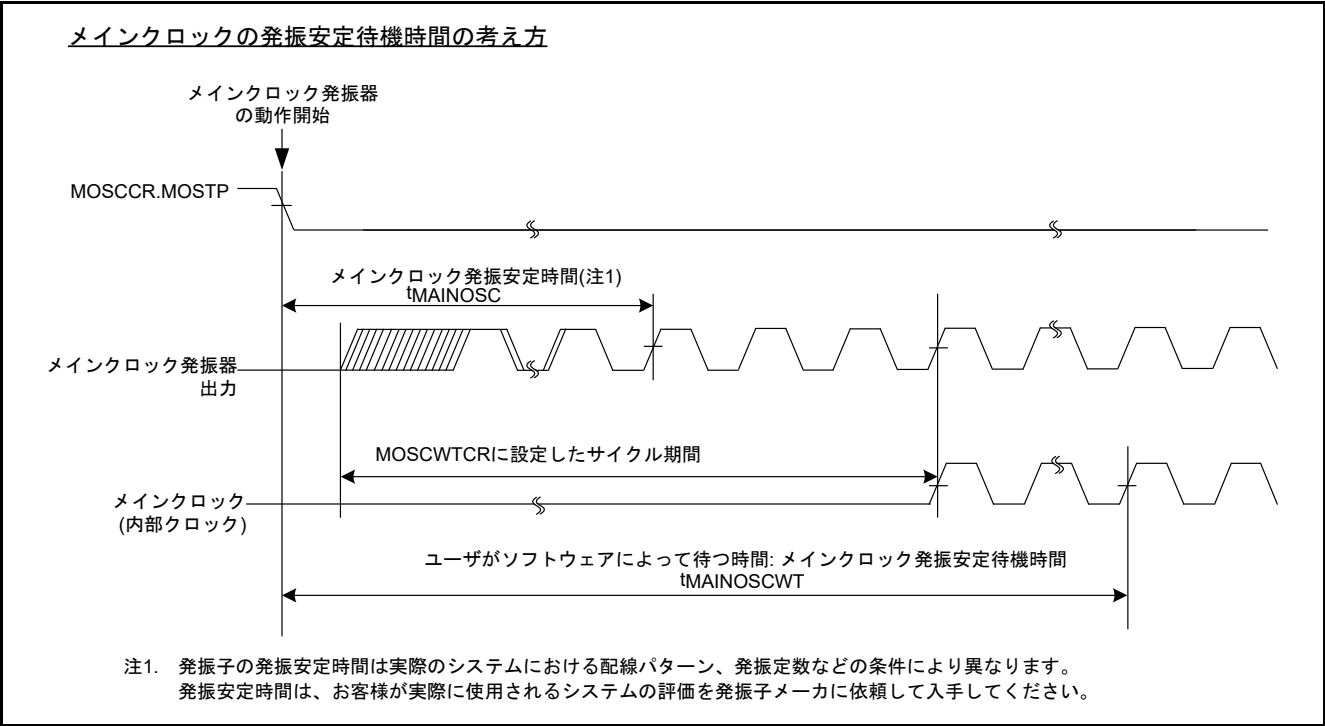


図3.1 メインクロックの発振安定待機時間の考え方

表3.5 メインクロックのウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値

ウェイトコントロール ／発振安定待機時間	算出方法	サンプルコード の設定値
ウェイトコントロール レジスタ (MOSCWTCR.MSTS)	発振子メーカーが推奨するメインクロックの発振安定時間以上の 値	0Dh (約 6.5536ms)
発振安定待機時間 (tMAINOSCWT)	MOSCWTCR レジスタに設定したサイクル期間の 2 倍以上の値	約 13.1072ms

3.3.2.2 PLL の発振安定待機時間の考え方(メインクロックの発振安定待機時間経過後に PLL の発振を行う場合)

図3.2にPLLの発振安定待機時間の考え方、表3.6にPLLのウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値を示します。

PLL のウェイトコントロールレジスタ(PLLWTCR)は「tPLL1 (最大 500μs)以上の値」を設定します。また、PLL の発振安定待機時間は「tPLLWT1 (最小 1.5ms)以上の値」を設定します。

PLL の発振安定時間は最大 500μs のため、サンプルコードでの設定値は、ウェイトコントロールレジスタは 09h (約 655.36μs)、発振安定待機時間は約 1.50ms となります。

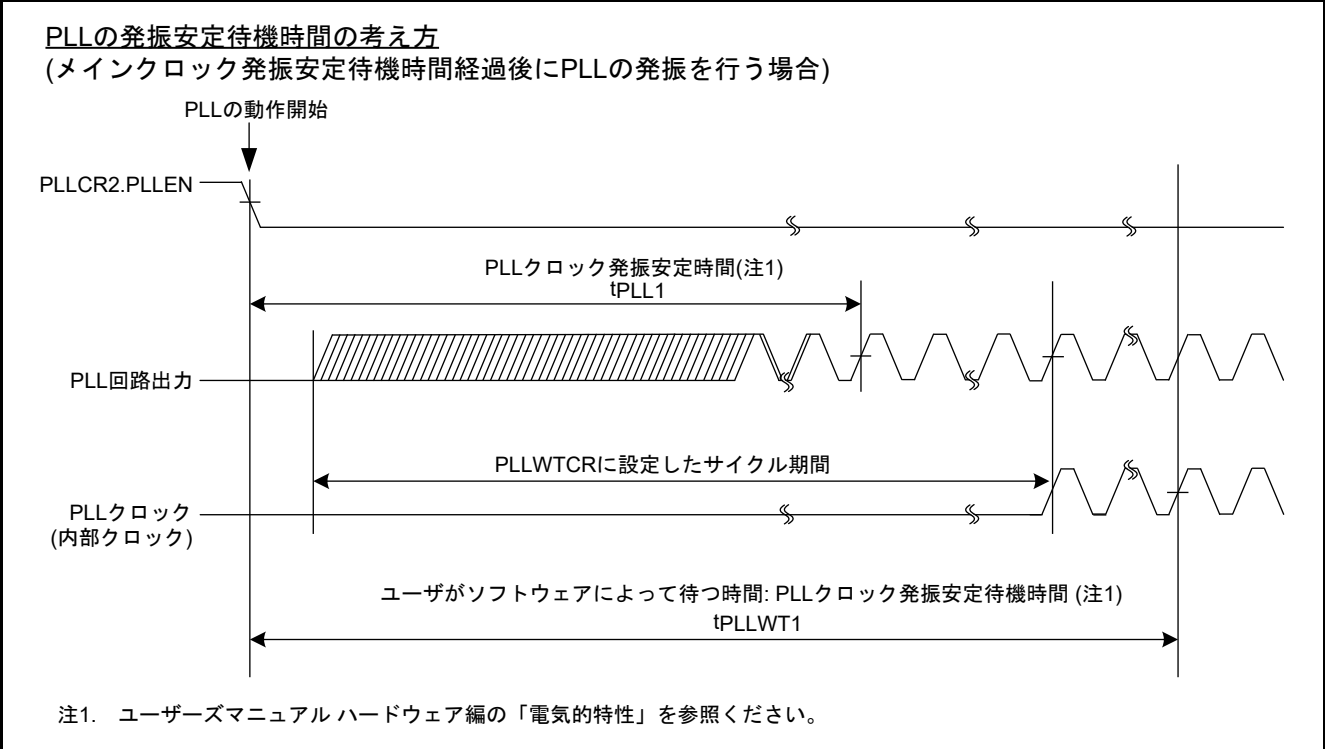


図3.2 PLL の発振安定待機時間の考え方

表3.6 PLL のウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値

ウェイトコントロール ／発振安定待機時間	算出方法	サンプルコード の設定値
ウェイトコントロール レジスタ (PLLWTCR.PSTS)	tPLL1 (最大 500μs)以上の値	09h (約 655.36μs)
発振安定待機時間 (tPLLWT1)	tPLLWT1(最小 1.5ms)以上の値	約 1.50ms

3.3.2.3 サブクロックの発振安定待機時間の考え方

図3.3にサブクロックの発振安定待機時間の考え方を、表3.7にサブクロックのウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値を示します。

サブクロックのウェイトコントロールレジスタ(SOSCWTCR)は「発振子メーカーが推奨するサブクロックの発振安定時間以上の値」を設定します。また、サブクロックの発振安定待機時間は「SOSCWTCR レジスタで設定した時間の2倍以上」を設定します。

サンプルコードで使用するサブクロックの発振安定時間は1.3sのため、サンプルコードでの設定値は、ウェイトコントロールレジスタは00h (2s + 約61μs)、発振安定待機時間は約4sとなります。

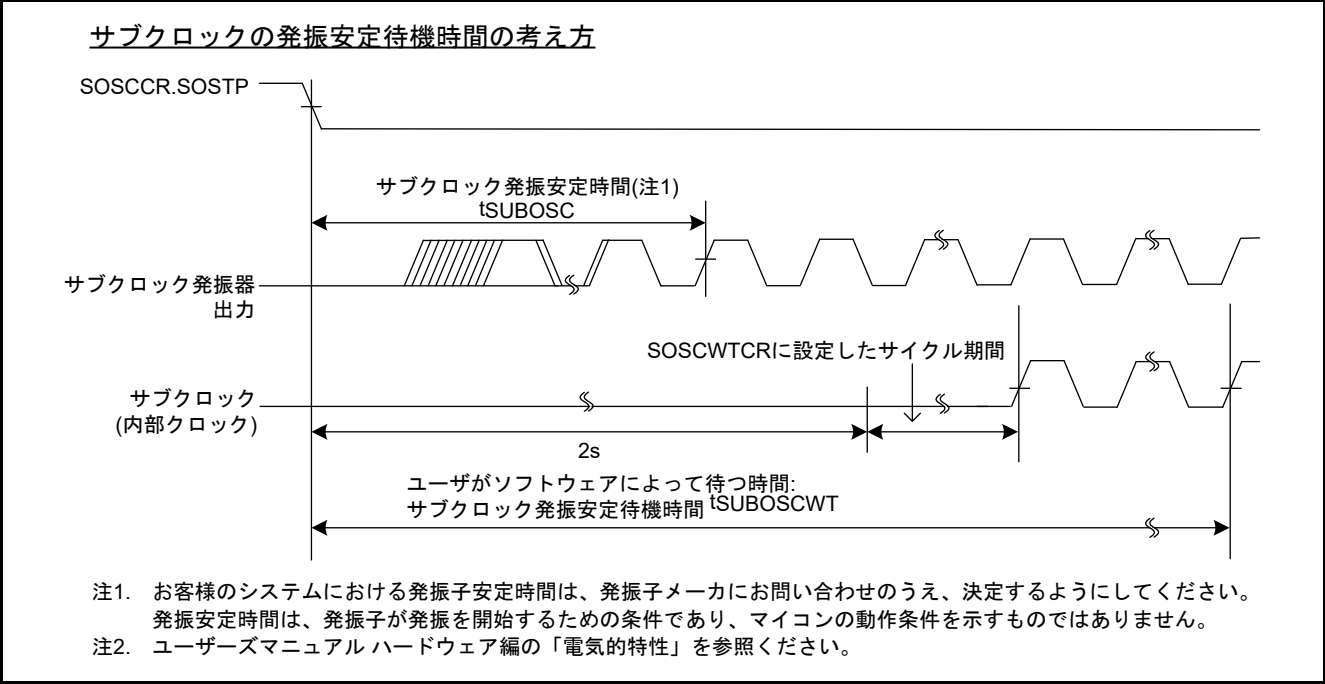


図3.3 サブクロックの発振安定待機時間の考え方

表3.7 サブクロックのウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値

ウェイトコントロール ／発振安定待機時間	算出方法	サンプルコード の設定値
ウェイトコントロール レジスタ (SOSCWTCR.SSTS)	発振子メーカーが推奨するサブクロックの発振安定時間以上の値	00h (2s + 約61μs)
発振安定待機時間 (tSUBOSCWT)	ウェイトコントロールレジスタで設定した時間の2倍以上の値	約4s

3.3.2.4 HOCO クロックの発振安定待機時間の考え方

図3.4にHOCOクロックの発振安定待機時間の考え方を、表3.8にHOCOクロックのウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値を示します。

HOCO クロックのウェイトコントロールレジスタ(HOCOWTCR)は HOCO クロックの周波数が 50MHz 以外(32MHz / 36.864MHz / 40MHz)の場合は「02h (7168 サイクル)」を、50MHz の場合は「03h (9216 サイクル)」を設定します。また、HOCO クロックの発振安定待機時間は「tHOCOWT (最大 350μs)以上」を設定します。

サンプルコードで使用する HOCO クロックの周波数は 50MHz のため、サンプルコードでの設定値は、ウェイトコントロールレジスタは 03h (約 184.32μs)、発振安定待機時間は約 350μs となります。

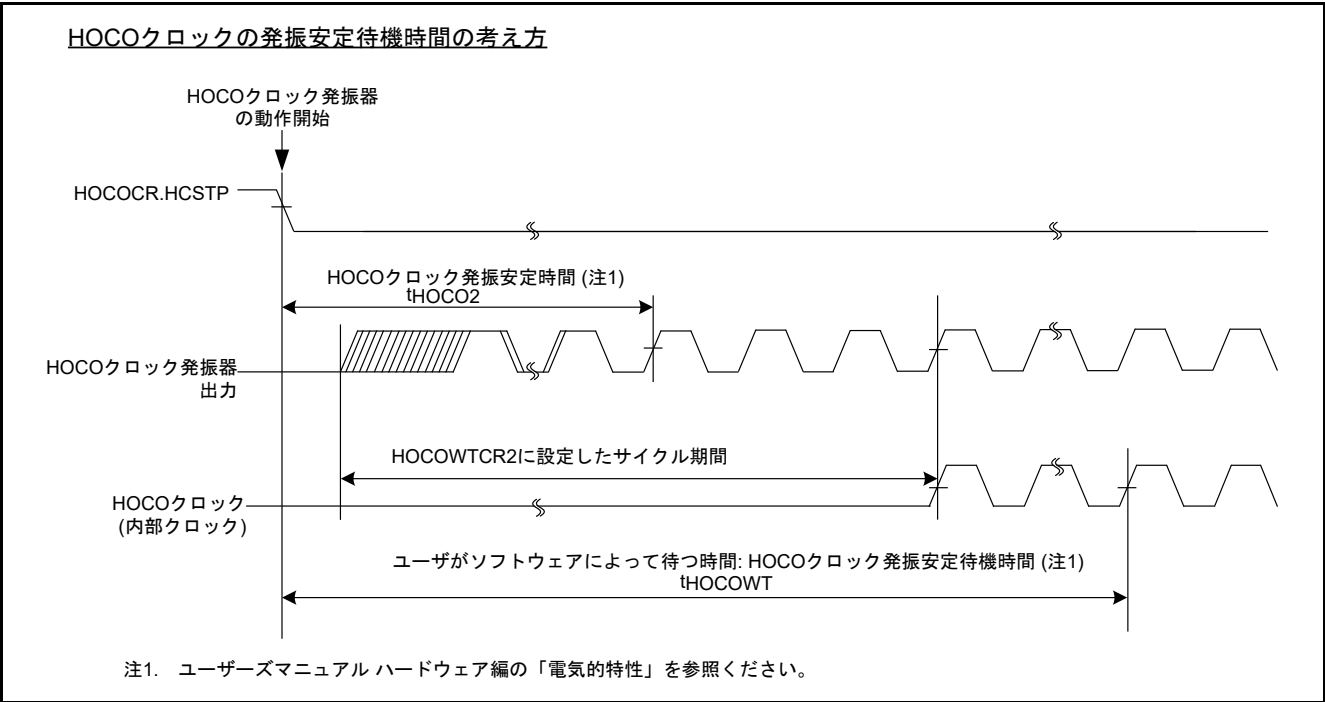


図3.4 HOCO クロックの発振安定待機時間の考え方

表3.8 HOCO クロックのウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値

ウェイトコントロール ／発振安定待機時間	算出方法	サンプルコード の設定値
ウェイトコントロール レジスタ (HOCOWTCR2.HSTS2)	HOCO クロックの周波数が 50MHz 以外の場合 : 02h (7168 サイクル) HOCO クロックの周波数が 50MHz の場合 : 03h (9216 サイクル)	03h (約 184.32μs)
発振安定待機時間 (tHOCOWT)	tHOCOWT (最大 350μs)以上の値	約 350μs

3.4 ファイル構成

表3.9にサンプルコードで使用するファイルを示します。なお、統合開発環境で自動生成されるファイルは除きます。

表3.9 サンプルコードで使用するファイル

ファイル名	概要	備考
main.c	メイン処理	
r_init_stop_module.c	リセット後に動作している周辺機能の停止	
r_init_stop_module.h	r_init_stop_module.c のヘッダファイル	
r_init_non_existent_port.c	存在しないポートの初期設定	
r_init_non_existent_port.h	r_init_non_existent_port.c のヘッダファイル	
r_init_clock.c	クロック初期設定	
r_init_clock.h	r_init_clock.c のヘッダファイル	

3.5 オプション設定メモリ

表3.10にサンプルコードで使用するオプション設定メモリの状態を示します。必要に応じて、お客様のシステムに最適な値を設定してください。

表3.10 サンプルコードで使用するオプション設定メモリ

シンボル	アドレス	設定値	内容
OFS0	FFFF FF8Fh~FFFF FF8Ch	FFFF FFFFh	リセット後、IWDT は停止 リセット後、WDT は停止
OFS1	FFFF FF8Bh~FFFF FF88h	FFFF FFFFh	リセット後、電圧監視 0 リセット無効 リセット後、HOCO 発振が無効
MDES	FFFF FF83h~FFFF FF80h	FFFF FFFFh	リトルエンディアン

3.6 定数一覧

表3.11、表3.12にサンプルコードで使用する定数(ユーザ変更可)を、表3.13にサンプルコードで使用する定数(ユーザ変更不可)を、表3.14に145、144ピン版(PIN_SIZE=145またはPIN_SIZE=144)の場合での定数を、表3.15に100ピン版(PIN_SIZE=100)の場合での定数を、表3.16に80ピン版(PIN_SIZE=80)の場合での定数を、表3.17に69、64ピン版(PIN_SIZE=69またはPIN_SIZE=64)の場合での定数を、表3.18に48ピン版(PIN_SIZE=48)の場合での定数を示します。

表3.11 サンプルコードで使用する定数(ユーザ変更可) (1/2)

定数名	設定値	内容
SEL_CHIP (注 1)	VERSION_A	チップバージョン選択 VERSION_A : チップバージョン A VERSION_B : チップバージョン B VERSION_C : チップバージョン C
SEL_MAIN (注 1)	B_USE	メインクロックの発振/停止選択 B_USE : 使用する (メインクロック発振) B_NOT_USE : 使用しない (メインクロック停止)
MAIN_CLOCK_Hz (注 1)	20,000,000 L	メインクロックの発振子周波数(Hz)
REG_MOFCR (注 1)	30h	メインクロック発振器のドライブ能力の設定 (MOFCR レジスタの設定値)
REG_MOSCWTCR(注 1)	0Dh	メインクロックのウェイトコントロールレジスタの設定値
WAIT_TIME_FOR_MAIN_oscillation (注 1)	13,107,200 L	メインクロックの発振安定待機時間(ns)
SEL_SUB (注 1、注 2)	B_NOT_USE	サブクロック使用選択(システムクロックとして使用) B_USE : 使用する B_NOT_USE : 使用しない
SEL_RTC (注 1、注 2)	B_NOT_USE	サブクロック使用選択(RTC のカウントソースとして使用) B_USE : 使用する B_NOT_USE : 使用しない
SUB_CLOCK_Hz (注 1)	32,768 L	サブクロックの発振子周波数(Hz)
REG_SOSCWTCR (注 1)	00h	サブクロックのウェイトコントロールレジスタの設定値
WAIT_TIME_FOR_SUB_oscillation (注 1)	4,000,000,000 L	サブクロックの発振安定待機時間(ns)
REG_RCR3 (注 1)	CL_LOW	サブクロック発振器のドライブ能力の選択 CL_STD : 標準 CL 用ドライブ能力 CL_LOW : 低 CL 用ドライブ能力
SEL_PLL (注 1)	B_USE	PLL クロックの発振/停止選択 B_USE : 使用する (PLL クロック発振) B_NOT_USE : 使用しない (PLL クロック停止)
REG_PLLCR (注 1)	0901h	PLL の入力分周比、周波数通倍率の設定 (PLLCR レジスタの設定値)
REG_PLLWTCR (注 1)	09h	PLL のウェイトコントロールレジスタの設定値
WAIT_TIME_FOR_PLL_oscillation (注 1)	1,500,000 L	PLL クロックの発振安定待機時間(ns)

注1. 使用するシステムに応じて「r_init_clock.h」で設定値を変更してください。

注2. SEL_SUB と SEL_RTC のどちらか、または両方に B_USE(使用する)を設定すると、サブクロックの発振設定を行います。

表3.12 サンプルコードで使用する定数(ユーザ変更可) (2/2)

定数名	設定値	内容
SEL_HOCO (注 1)	B_NOT_USE	HOCO クロックの発振/停止選択 B_USE : 使用する (HOCO クロック発振) B_NOT_USE : 使用しない (HOCO クロック停止)
REG_HOCOCR2 (注 1)	FREQ_50MHz	HOCO クロックの周波数の選択 FREQ_32MHz: 32MHz FREQ_36MHz: 36.864MHz FREQ_40MHz: 40MHz FREQ_50MHz: 50MHz
WAIT_TIME_FOR_HOCO_OSCILLATION (注 1)	350,000 L	HOCO クロックの発振安定待機時間(ns)
SEL_SYSCLK (注 1)	CLK_PLL	システムクロックのクロックソース選択 CLK_PLL : PLL CLK_HOCO : HOCO CLK_MAIN : メインクロック(注 4) CLK_SUB : サブクロック
REG_OPCCR (注 1)	OPCM_HIGH	動作電力制御モード選択(注 8) OPCM_HIGH : 高速動作モード OPCM_MID_1A : 中速動作モード 1A OPCM_MID_1B : 中速動作モード 1B OPCM_MID_2A : 中速動作モード 2A (注 5) OPCM_MID_2B : 中速動作モード 2B (注 5) OPCM_LOW_1 : 低速動作モード 1 (注 6) OPCM_LOW_2 : 低速動作モード 2 (注 7)
MSTP_STATE_DMADCDC (注 2)	MODULE_STOP_DISABLE	DMAC、DTC のモジュールストップ状態選択 MODULE_STOP_DISABLE : 解除 MODULE_STOP_EABLE : 遷移
MSTP_STATE_RAM0 (注 2)	MODULE_STOP_DISABLE	RAM0 のモジュールストップ状態選択 MODULE_STOP_DISABLE : 動作 MODULE_STOP_EABLE : 停止
MSTP_STATE_RAM1 (注 2)	MODULE_STOP_DISABLE	RAM1 のモジュールストップ状態選択 MODULE_STOP_DISABLE : 動作 MODULE_STOP_EABLE : 停止
PIN_SIZE (注 3)	100	使用する製品のピン数

注1. 使用するシステムに応じて「r_init_clock.h」で設定値を変更してください。

注2. 使用するシステムに応じて「r_init_stop_module.h」で設定値を変更してください。

注3. 使用するシステムに応じて「r_init_non_existent_port.h」で設定値を変更してください。

注4. チップバージョン A では、クロックソースとしてメインクロック発振器を選択できません。

注5. チップバージョン B 以外では、中速動作モード 2A、中速動作モード 2B は選択できません。

注6. PLL を発振する設定にした場合、低速動作モード 1 は選択できません。

注7. PLL を発振する、または HOCO を発振する設定にした場合、低速動作モード 2 は選択できません。

注8. 動作モードによって、動作周波数範囲および動作電圧範囲が異なります。詳細はユーザーズマニュアル ハードウェア編を参照ください。

表3.13 サンプルコードで使用する定数(ユーザ変更不可)

定数名	設定値	内容
VERSION_A	1	チップバージョン A
VERSION_B	2	チップバージョン B
VERSION_C	3	チップバージョン C
B_NOT_USE	0	使用しない
B_USE	1	使用する
CL_LOW	02h	サブクロック: 低 CL 用ドライブ能力
CL_STD	0Ch	サブクロック: 標準 CL 用ドライブ能力
FREQ_32MHz	00h	HOCO 周波数: 32MHz
FREQ_36MHz	01h	HOCO 周波数: 36.864MHz
FREQ_40MHz	02h	HOCO 周波数: 40MHz
FREQ_50MHz	03h	HOCO 周波数: 50MHz
CLK_PLL	0400h	クロックソース: PLL
CLK_HOCO	0100h	クロックソース: HOCO
CLK_SUB	0300h	クロックソース: サブクロック
CLK_MAIN	0200h	クロックソース: メインクロック
REG_HOCOWTCR2 (注 1)	03h (50MHz 選択時) 02h (50MHz 以外選択時)	HOCO のウェイトコントロールレジスタの 設定値
REG_SCKCR (注 2)	2182 1211h (PLL 選択時) 1081 1110h (HOCO 選択時) 0080 1010h (上記以外)	内部クロック分周比、BCLK 端子出力制御の 設定(SCKCR レジスタの設定値)
OPCM_HIGH	00h	動作電力制御モード: 高速動作モード
OPCM_MID_1A	02h	動作電力制御モード: 中速動作モード 1A
OPCM_MID_1B	03h	動作電力制御モード: 中速動作モード 1B
OPCM_MID_2A	04h	動作電力制御モード: 中速動作モード 2A
OPCM_MID_2B	05h	動作電力制御モード: 中速動作モード 2B
OPCM_LOW_1	06h	動作電力制御モード: 低速動作モード 1
OPCM_LOW_2	07h	動作電力制御モード: 低速動作モード 2
MAIN_CLOCK_CYCLE	(1,000,000,000L / MAIN_CLOCK_Hz)	メインクロックの周期(ns)
SUB_CLOCK_CYCLE	(1,000,000,000L / SUB_CLOCK_Hz)	サブクロックの周期(ns)
FOR_CMT0_TIME	232727	発振安定待機時間待ち用タイマ(CMT0)の カウント周期(ns)= 1/LOCO(137.5kHz) × 32(LOCO=137.5kHz(max)、PCLKB の 32 分 周)
MODULE_STOP_ENABLE	1	モジュールストップ状態へ遷移
MODULE_STOP_DISABLE	0	モジュールストップ状態の解除

注1. 選択した HOCO 周波数により、設定値が異なります。

注2. 選択したシステムクロックのクロックソースにより、設定値が異なります。

表3.14 145、144 ピン版(PIN_SIZE=145 または PIN_SIZE=144)の場合での定数

定数名	設定値	内容
DEF_P0PDR	0x00	ポート P0 の方向レジスタ設定値
DEF_P1PDR	0x00	ポート P1 の方向レジスタ設定値
DEF_P2PDR	0x00	ポート P2 の方向レジスタ設定値
DEF_P3PDR	0x00	ポート P3 の方向レジスタ設定値
DEF_P4PDR	0x00	ポート P4 の方向レジスタ設定値
DEF_P5PDR	0x00	ポート P5 の方向レジスタ設定値
DEF_P6PDR	0x00	ポート P6 の方向レジスタ設定値
DEF_P7PDR	0x00	ポート P7 の方向レジスタ設定値
DEF_P8PDR	0x00	ポート P8 の方向レジスタ設定値
DEF_P9PDR	0x00	ポート P9 の方向レジスタ設定値
DEF_PAPDR	0x00	ポート PA の方向レジスタ設定値
DEF_PBPDR	0x00	ポート PB の方向レジスタ設定値
DEF_PCPDR	0x00	ポート PC の方向レジスタ設定値
DEF_PDPDR	0x00	ポート PD の方向レジスタ設定値
DEF_PEPDR	0x00	ポート PE の方向レジスタ設定値
DEF_PFPDR	0x00	ポート PF の方向レジスタ設定値
DEF_PHPDR	0x00	ポート PH の方向レジスタ設定値
DEF_PJPDR	0x00	ポート PJ の方向レジスタ設定値
DEF_PKPDR	0x00	ポート PK の方向レジスタ設定値
DEF_PLPDR	0x00	ポート PL の方向レジスタ設定値

表3.15 100ピン版(PIN_SIZE=100)の場合での定数

定数名	設定値	内容
DEF_P0PDR	0x07	ポート P0 の方向レジスタ設定値
DEF_P1PDR	0x00	ポート P1 の方向レジスタ設定値
DEF_P2PDR	0x00	ポート P2 の方向レジスタ設定値
DEF_P3PDR	0x00	ポート P3 の方向レジスタ設定値
DEF_P4PDR	0x00	ポート P4 の方向レジスタ設定値
DEF_P5PDR	0x40	ポート P5 の方向レジスタ設定値
DEF_P6PDR	0xFF	ポート P6 の方向レジスタ設定値
DEF_P7PDR	0xFF	ポート P7 の方向レジスタ設定値
DEF_P8PDR	0xCF	ポート P8 の方向レジスタ設定値
DEF_P9PDR	0x0F	ポート P9 の方向レジスタ設定値
DEF_PAPDR	0x00	ポート PA の方向レジスタ設定値
DEF_PBPDR	0x00	ポート PB の方向レジスタ設定値
DEF_PCPDR	0x00	ポート PC の方向レジスタ設定値
DEF_PDPDR	0x00	ポート PD の方向レジスタ設定値
DEF_PEPDR	0x00	ポート PE の方向レジスタ設定値
DEF_PFPDR	0x20	ポート PF の方向レジスタ設定値
DEF_PHPDR	0x00	ポート PH の方向レジスタ設定値
DEF_PJPDR	0x20	ポート PJ の方向レジスタ設定値
DEF_PKPDR	0x3C	ポート PK の方向レジスタ設定値
DEF_PLPDR	0x03	ポート PL の方向レジスタ設定値

表3.16 80ピン版(PIN_SIZE=80)の場合での定数

定数名	設定値	内容
DEF_P0PDR	0x00	ポート P0 の方向レジスタ設定値
DEF_P1PDR	0x00	ポート P1 の方向レジスタ設定値
DEF_P2PDR	0x3C	ポート P2 の方向レジスタ設定値
DEF_P3PDR	0x08	ポート P3 の方向レジスタ設定値
DEF_P4PDR	0x00	ポート P4 の方向レジスタ設定値
DEF_P5PDR	0x0F	ポート P5 の方向レジスタ設定値
DEF_P6PDR	0x00	ポート P6 の方向レジスタ設定値
DEF_P7PDR	0x00	ポート P7 の方向レジスタ設定値
DEF_P8PDR	0x00	ポート P8 の方向レジスタ設定値
DEF_P9PDR	0x00	ポート P9 の方向レジスタ設定値
DEF_PAPDR	0x80	ポート PA の方向レジスタ設定値
DEF_PBPDR	0x00	ポート PB の方向レジスタ設定値
DEF_PCPDR	0x03	ポート PC の方向レジスタ設定値
DEF_PDPDR	0xF8	ポート PD の方向レジスタ設定値
DEF_PEPDR	0xC0	ポート PE の方向レジスタ設定値
DEF_PFPDR	0x00	ポート PF の方向レジスタ設定値
DEF_PHPDR	0x00	ポート PH の方向レジスタ設定値
DEF_PJPDR	0x08	ポート PJ の方向レジスタ設定値
DEF_PKPDR	0x00	ポート PK の方向レジスタ設定値
DEF_PLPDR	0x00	ポート PL の方向レジスタ設定値

表3.17 69、64 ピン版(PIN_SIZE=69 または PIN_SIZE=64)の場合での定数

定数名	設定値	内容
DEF_P0PDR	0x80	ポート P0 の方向レジスタ設定値
DEF_P1PDR	0x0C	ポート P1 の方向レジスタ設定値
DEF_P2PDR	0x3F	ポート P2 の方向レジスタ設定値
DEF_P3PDR	0x18	ポート P3 の方向レジスタ設定値
DEF_P4PDR	0xA0	ポート P4 の方向レジスタ設定値
DEF_P5PDR	0x0F	ポート P5 の方向レジスタ設定値
DEF_P6PDR	0x00	ポート P6 の方向レジスタ設定値
DEF_P7PDR	0x00	ポート P7 の方向レジスタ設定値
DEF_P8PDR	0x00	ポート P8 の方向レジスタ設定値
DEF_P9PDR	0x00	ポート P9 の方向レジスタ設定値
DEF_PAPDR	0xA4	ポート PA の方向レジスタ設定値
DEF_PBPDR	0x14	ポート PB の方向レジスタ設定値
DEF_PCPDR	0x03	ポート PC の方向レジスタ設定値
DEF_PDPDR	0xFF	ポート PD の方向レジスタ設定値
DEF_PEPDR	0xC0	ポート PE の方向レジスタ設定値
DEF_PFPDR	0x00	ポート PF の方向レジスタ設定値
DEF_PHPDR	0x00	ポート PH の方向レジスタ設定値
DEF_PJPDR	0x0A	ポート PJ の方向レジスタ設定値
DEF_PKPDR	0x00	ポート PK の方向レジスタ設定値
DEF_PLPDR	0x00	ポート PL の方向レジスタ設定値

表3.18 48ピン版(PIN_SIZE=48)の場合での定数

定数名	設定値	内容
DEF_P0PDR	0xA8	ポート P0 の方向レジスタ設定値
DEF_P1PDR	0x0C	ポート P1 の方向レジスタ設定値
DEF_P2PDR	0x3F	ポート P2 の方向レジスタ設定値
DEF_P3PDR	0x1C	ポート P3 の方向レジスタ設定値
DEF_P4PDR	0xB8	ポート P4 の方向レジスタ設定値
DEF_P5PDR	0x3F	ポート P5 の方向レジスタ設定値
DEF_P6PDR	0x00	ポート P6 の方向レジスタ設定値
DEF_P7PDR	0x00	ポート P7 の方向レジスタ設定値
DEF_P8PDR	0x00	ポート P8 の方向レジスタ設定値
DEF_P9PDR	0x00	ポート P9 の方向レジスタ設定値
DEF_PAPDR	0xA5	ポート PA の方向レジスタ設定値
DEF_PBPDR	0xD4	ポート PB の方向レジスタ設定値
DEF_PCPDR	0x0F	ポート PC の方向レジスタ設定値
DEF_PDPDR	0xFF	ポート PD の方向レジスタ設定値
DEF_PEPDR	0xE1	ポート PE の方向レジスタ設定値
DEF_PFPDR	0x00	ポート PF の方向レジスタ設定値
DEF_PHPDR	0x00	ポート PH の方向レジスタ設定値
DEF_PJPDR	0x0A	ポート PJ の方向レジスタ設定値
DEF_PKPDR	0x00	ポート PK の方向レジスタ設定値
DEF_PLPDR	0x00	ポート PL の方向レジスタ設定値

3.7 関数一覧

表3.19にサンプルコードで使用する関数を示します。

表3.19 サンプルコードで使用する関数

関数名	概要
main	メイン処理
R_INIT_StopModule	リセット後に動作している周辺機能の停止
R_INIT_NonExistentPort	存在しないポートの初期設定
R_INIT_Clock	クロック初期設定
CGC_oscillation_main	メインクロックの発振設定
CGC_oscillation_PLL	PLLクロックの発振設定
CGC_oscillation_HOCO	HOCOクロックの発振設定
CGC_oscillation_sub	サブクロックの発振設定
CGC_disable_subclk	サブクロックの停止設定
oscillation_subclk	サブクロックの発振
no_use_subclk_as_sysclk	サブクロックをシステムクロックとして使用しない場合の設定
resetting_wtcr_subclk	サブクロックのウェイトコントロールレジスタの再設定
enable_RTC	RTC を使用する場合の初期化
cmt0_wait	CMT0によるソフトウェアウェイト

3.8 関数仕様

サンプルコードの関数仕様を示します。

main	
概 要	メイン処理
ヘッダ	なし
宣 言	void main (void)
説 明	リセット後に動作している周辺機能の停止設定関数、存在しないポートの初期設定関数およびクロックの初期設定関数を呼び出します。
引 数	なし
リターン値	なし

R_INIT_StopModule	
概 要	リセット後に動作している周辺機能の停止
ヘッダ	r_init_stop_module.h
宣 言	void R_INIT_StopModule (void)
説 明	モジュールストップ状態へ遷移する設定を行います。
引 数	なし
リターン値	なし
備 考	サンプルコードでは、モジュールストップ状態への遷移は行っていません。

R_INIT_NonExistentPort	
概 要	存在しないポートの初期設定
ヘッダ	r_init_non_existent_port.h
宣 言	void R_INIT_NonExistentPort (void)
説 明	144 ピン未満の製品に対して、存在しないポートの端子に対応するポート方向レジスタの初期設定を行います。
引 数	なし
リターン値	なし
備 考	サンプルコードでは、100 ピン版(PIN_SIZE=100)に設定しています。 本関数をコールした後に、存在しないポートを含む PDR、PODR レジスタへバイト単位で書き込む場合、存在しないポートの方向制御ビットには“1”、ポート出力データ格納ビットには“0”を設定してください。

R_INIT_Clock	
概 要	クロック初期設定
ヘッダ	r_init_clock.h
宣 言	void R_INIT_Clock (void)
説 明	クロックの初期設定を行います。
引 数	なし
リターン値	なし
備 考	サンプルコードでは、システムクロックを PLL とし、サブクロックを使用しない処理を選択しています。
CGC_oscillation_main	
概 要	メインクロックの発振設定
ヘッダ	r_init_clock.h
宣 言	void CGC_oscillation_main (void)
説 明	メインクロックのドライブ能力、および MOSCWTCR レジスタを設定してから、メインクロックを発振します。その後、ソフトウェアによるメインクロックの発振安定待機時間待ちを行います。
引 数	なし
リターン値	なし
CGC_oscillation_PLL	
概 要	PLLクロックの発振設定
ヘッダ	r_init_clock.h
宣 言	void CGC_oscillation_PLL (void)
説 明	PLL 入力分周比および周波数通倍率の設定、および PLLWTCR を設定してから、PLL クロックを発振します。その後、ソフトウェアによる PLL の発振安定時間待ちを行います。
引 数	なし
リターン値	なし
CGC_oscillation_HOCO	
概 要	HOCOクロックの発振設定
ヘッダ	r_init_clock.h
宣 言	void CGC_oscillation_HOCO (void)
説 明	HOCO の周波数、および HOCOWTCR2 レジスタを設定してから、HOCO を発振します。その後、ソフトウェアによる HOCO の発振安定待機時間待ちを行います。
引 数	なし
リターン値	なし

CGC_oscillation_sub	
概 要	サブクロックの発振設定
ヘッダ	r_init_clock.h
宣 言	void CGC_oscillation_sub (void)
説 明	サブクロックをシステムクロック、RTC のカウントソースのどちらか、または両方に使用する場合の設定を行います。
引 数	なし
リターン値	なし
CGC_disable_subclk	
概 要	サブクロックの停止設定
ヘッダ	r_init_clock.h
宣 言	void CGC_disable_subclk (void)
説 明	サブクロックをシステムクロックにも、RTC のカウントソースにも使用しない場合の設定を行います。
引 数	なし
リターン値	なし
oscillation_subclk	
概 要	サブクロックの発振
ヘッダ	なし
宣 言	static void oscillation_subclk (void)
説 明	サブクロックの発振設定を行います。
引 数	なし
リターン値	なし
no_use_subclk_as_sysclk	
概 要	サブクロックをシステムクロックとして使用しない場合の設定
ヘッダ	なし
宣 言	static void no_use_subclk_as_sysclk (void)
説 明	サブクロックを RTC のカウントソースのみに使用する場合、システムクロックとしてのサブクロックを停止します。
引 数	なし
リターン値	なし
resetting_wtcr_subclk	
概 要	サブクロックのウェイトコントロールレジスタの再設定
ヘッダ	なし
宣 言	static void resetting_wtcr_subclk (void)
説 明	ソフトウェアスタンバイモードからの復帰の際のウェイトコントロールレジスタの再設定を行います。この際、ウェイトコントロールレジスタは最小値に設定します。
引 数	なし
リターン値	なし

enable_RTC	
概 要	RTC を使用する場合の初期化
ヘッダ	なし
宣 言	static void enable_RTC (void)
説 明	RTC を使用する場合の初期化(クロック供給の設定と RTC ソフトウェアリセット)を行います。
引 数	なし
リターン値	なし

cmt0_wait	
概 要	CMT0によるソフトウェアウェイト
ヘッダ	なし
宣 言	static void cmt0_wait (uint32_t cnt)
説 明	発振安定待機時間待ちを行う際に使用します。
引 数	uint32_t cnt: 発振安定待機時間 cnt = 発振安定待機時間(ns)(注 1) ÷ FOR_CMT0_TIME (注 2)
リターン値	なし
備 考	注 1. 発振安定待機時間は発振子によって異なります。3.3.2の算出方法に基づいて設定してください。 注 2. FOR_CMT0_TIME は LOCO = 137.5kHz(max)で算出します。 実際の待ち時間は LOCO の周波数により異なります。

3.9 フローチャート

3.9.1 メイン処理

図3.5にメイン処理のフローチャートを示します。

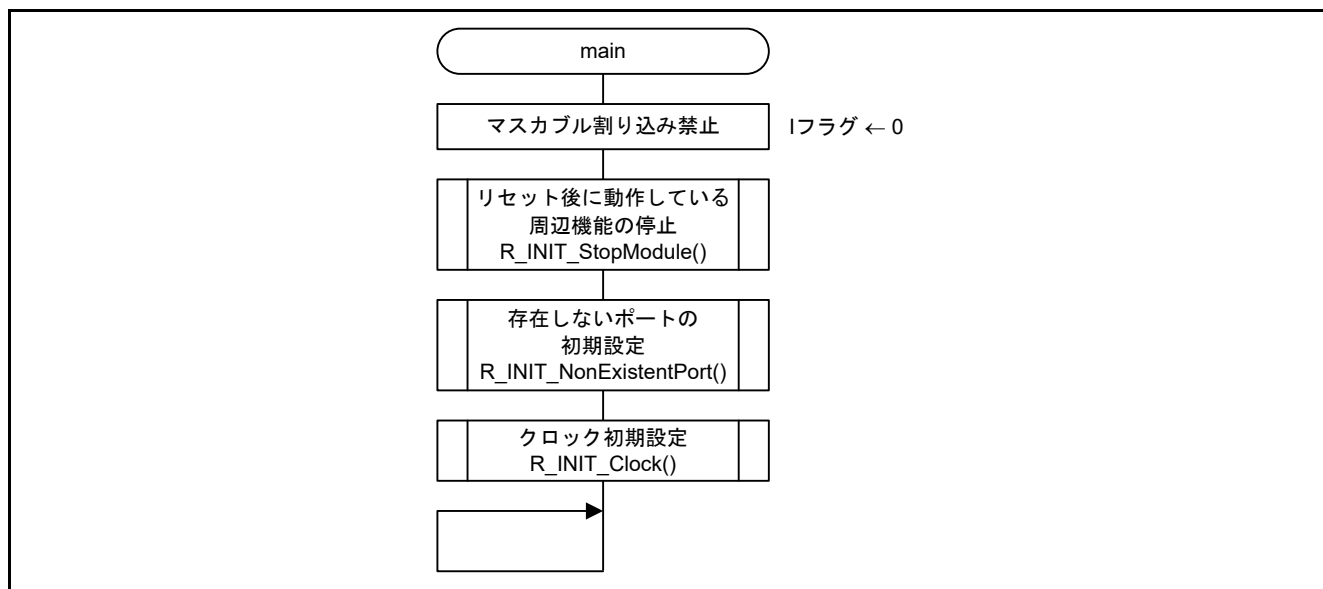


図3.5 メイン処理

3.9.2 リセット後に動作している周辺機能の停止

図3.6にリセット後に動作している周辺機能の停止のフローチャートを示します。

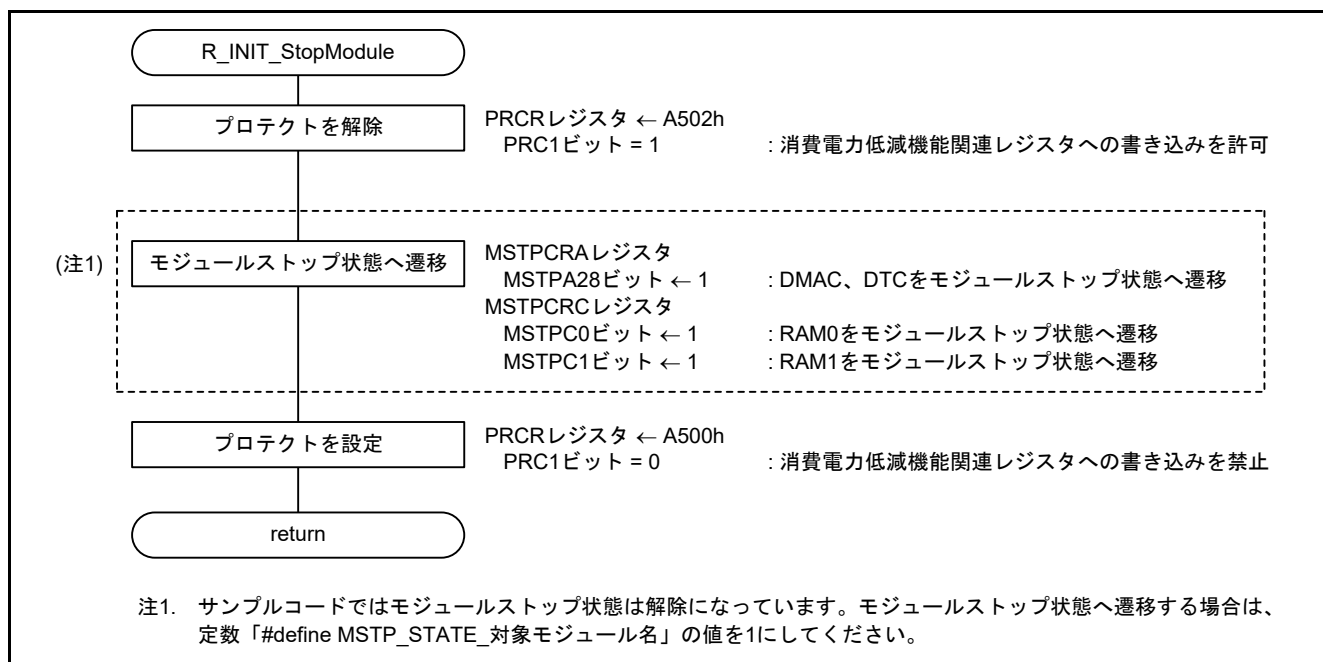


図3.6 リセット後に動作している周辺機能の停止

3.9.3 存在しないポートの初期設定

図3.7に存在しないポートの初期設定のフローチャートを示します。

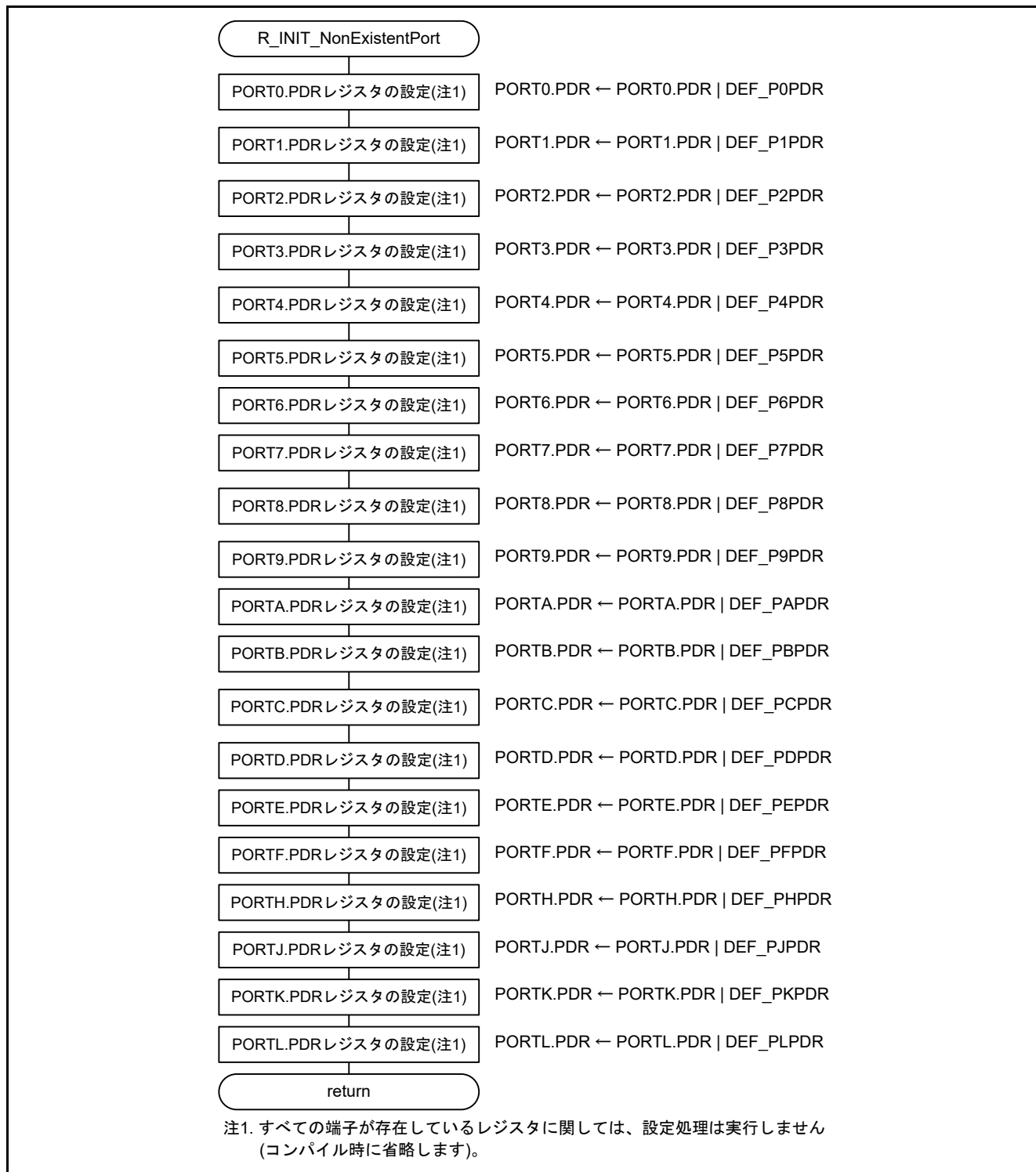


図3.7 存在しないポートの初期設定

3.9.4 クロック初期設定

図3.8、図3.9にクロック初期設定のフローチャートを示します。

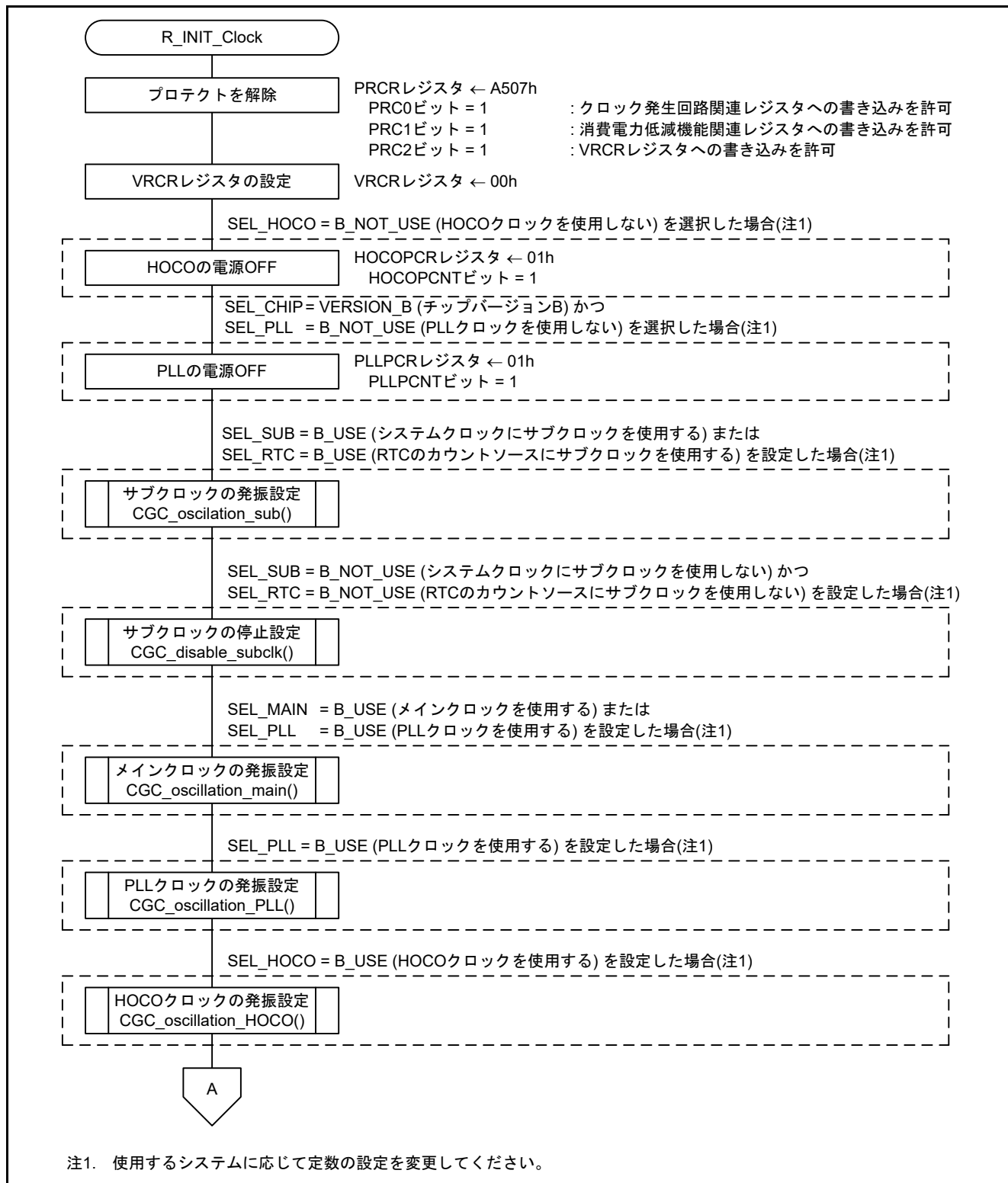


図3.8 クロック初期設定(1/2)

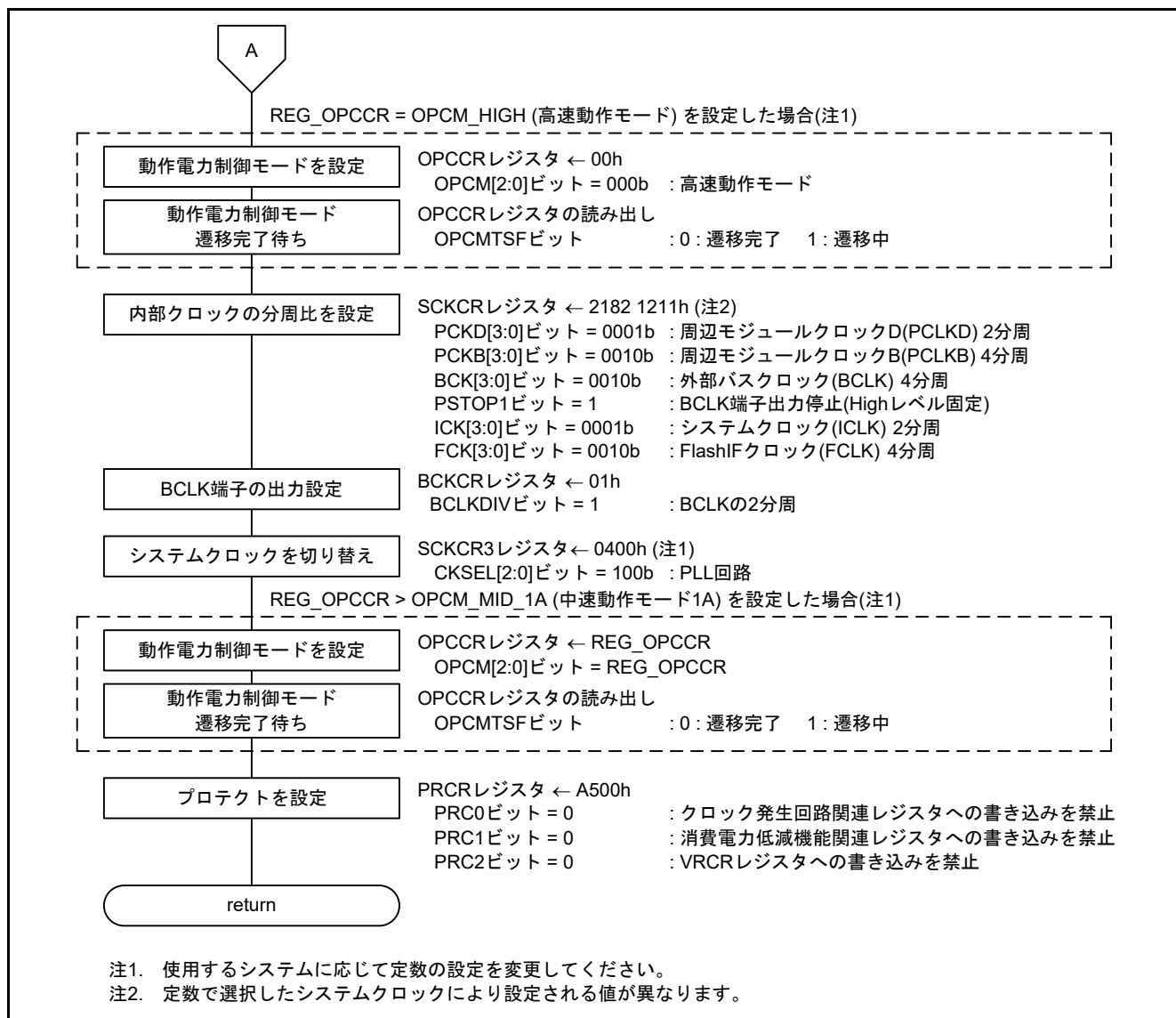


図3.9 クロック初期設定(2/2)

3.9.5 メインクロックの発振設定

図3.10にメインクロックの発振設定のフローチャートを示します。

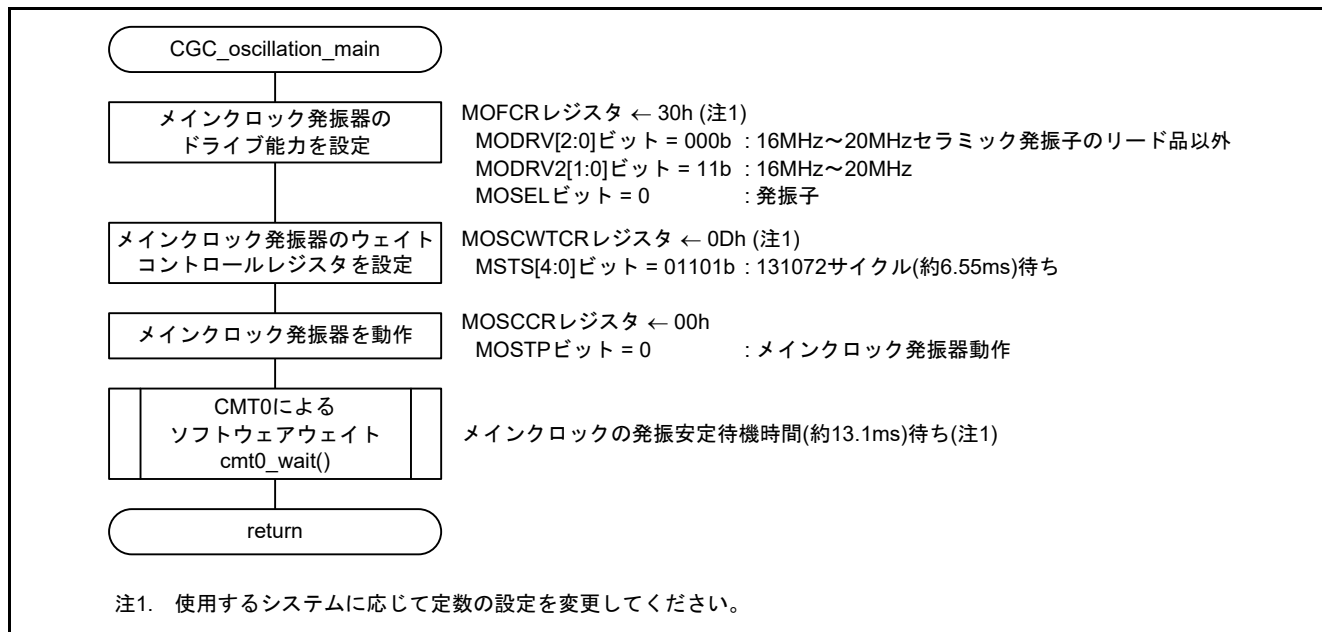


図3.10 メインクロックの発振設定

3.9.6 PLL クロックの発振設定

図3.11にPLLクロックの発振設定のフローチャートを示します。

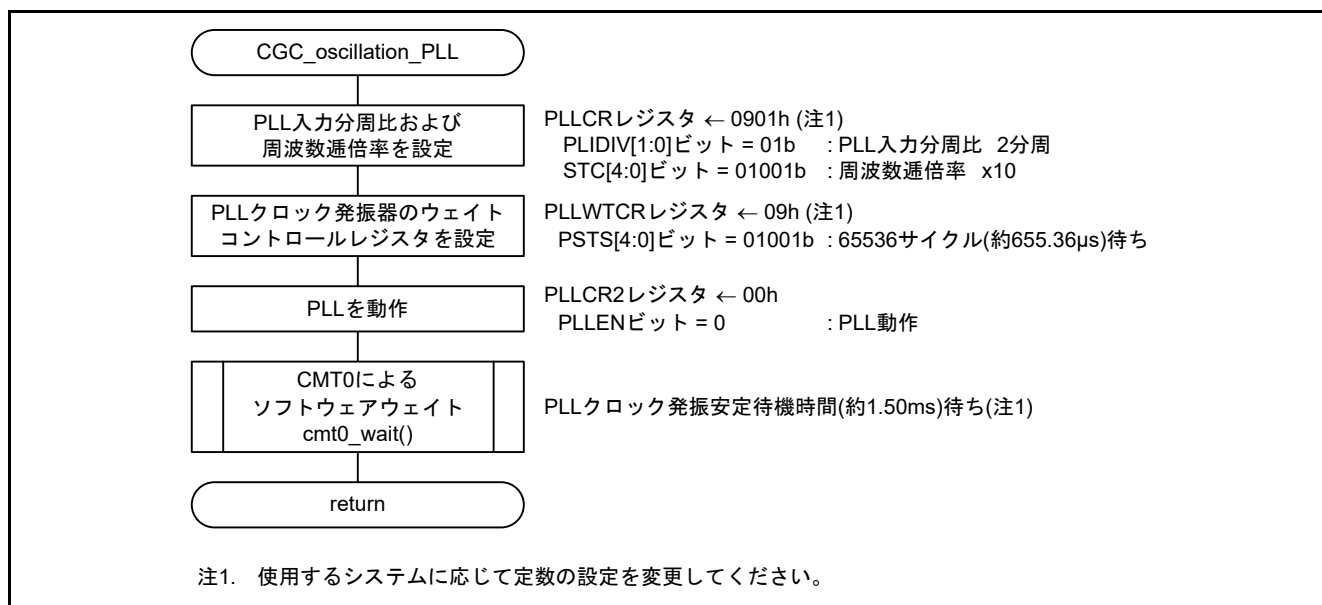


図3.11 PLLクロックの発振設定

3.9.7 HOCO クロックの発振設定

図3.12にHOCOクロックの発振設定のフローチャートを示します。

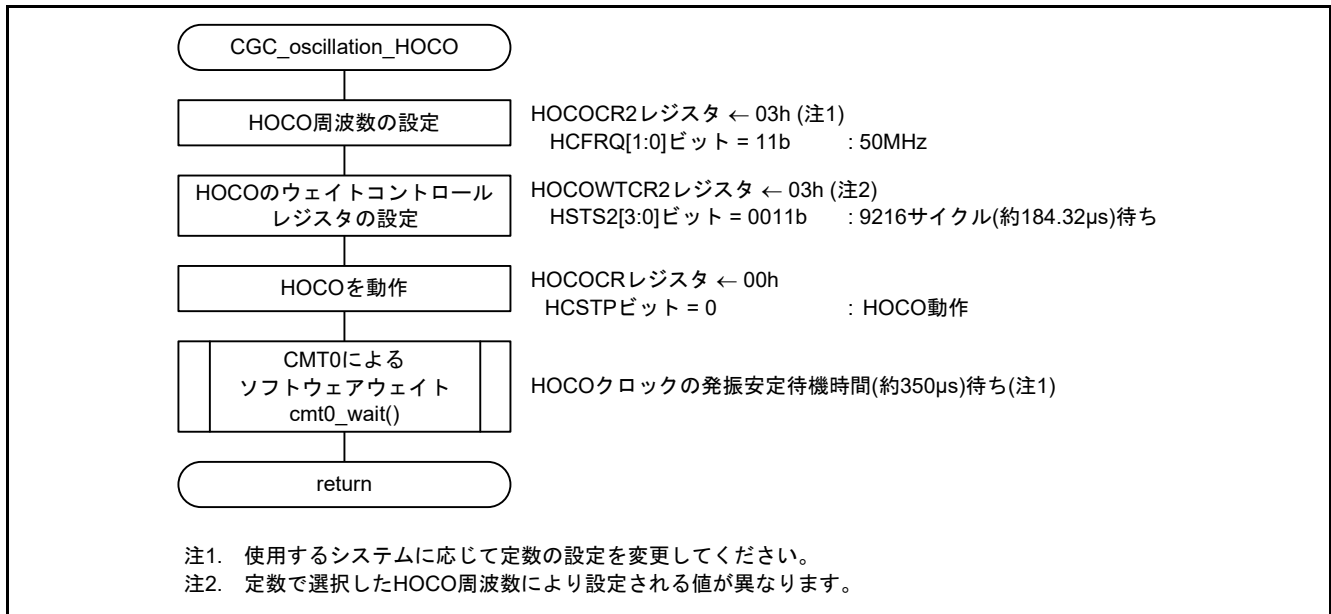


図3.12 HOCOクロックの発振設定

3.9.8 サブクロックの発振設定

図3.13、図3.14にサブクロックの発振設定を示します。

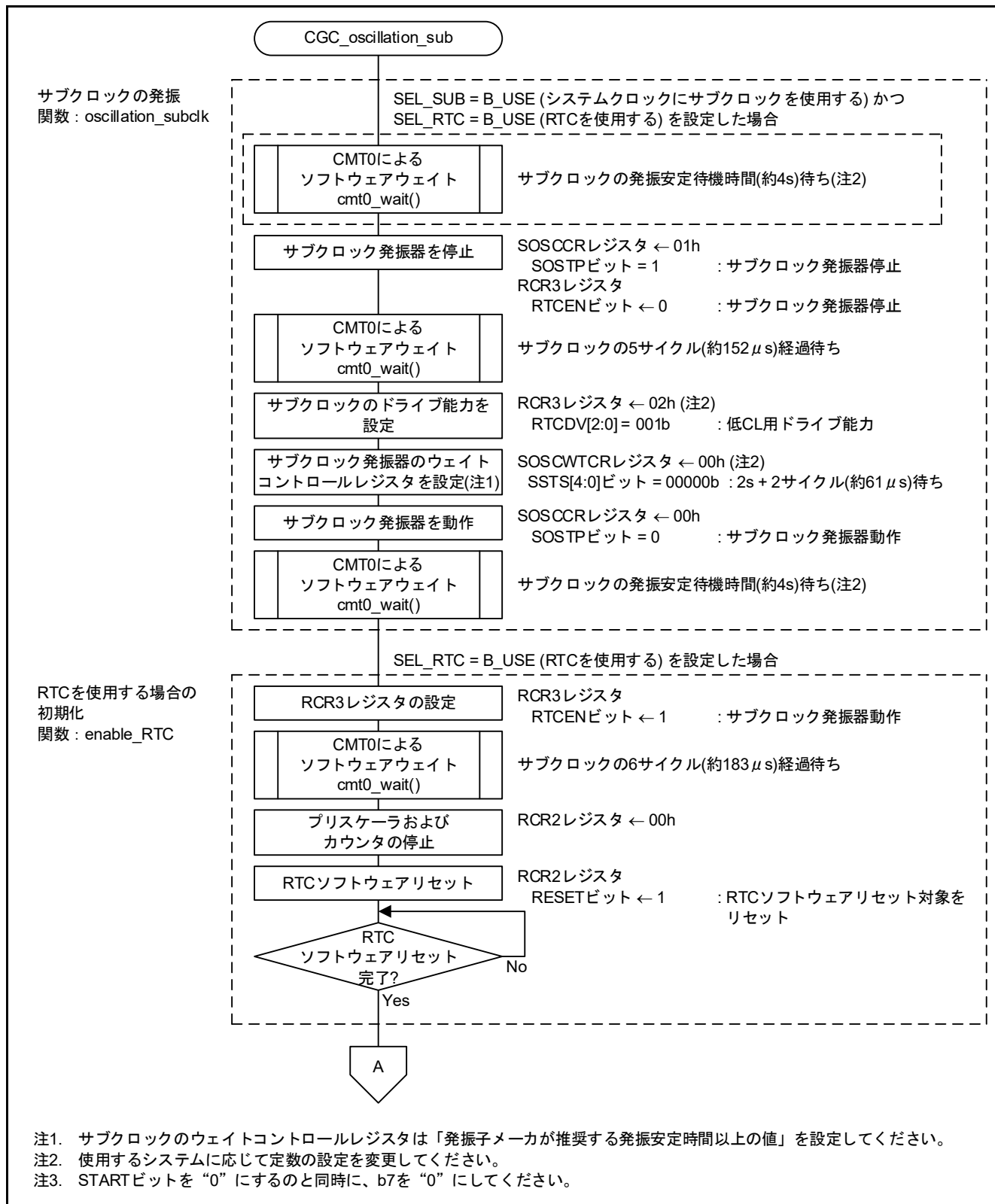


図3.13 サブクロックの発振設定(1/2)

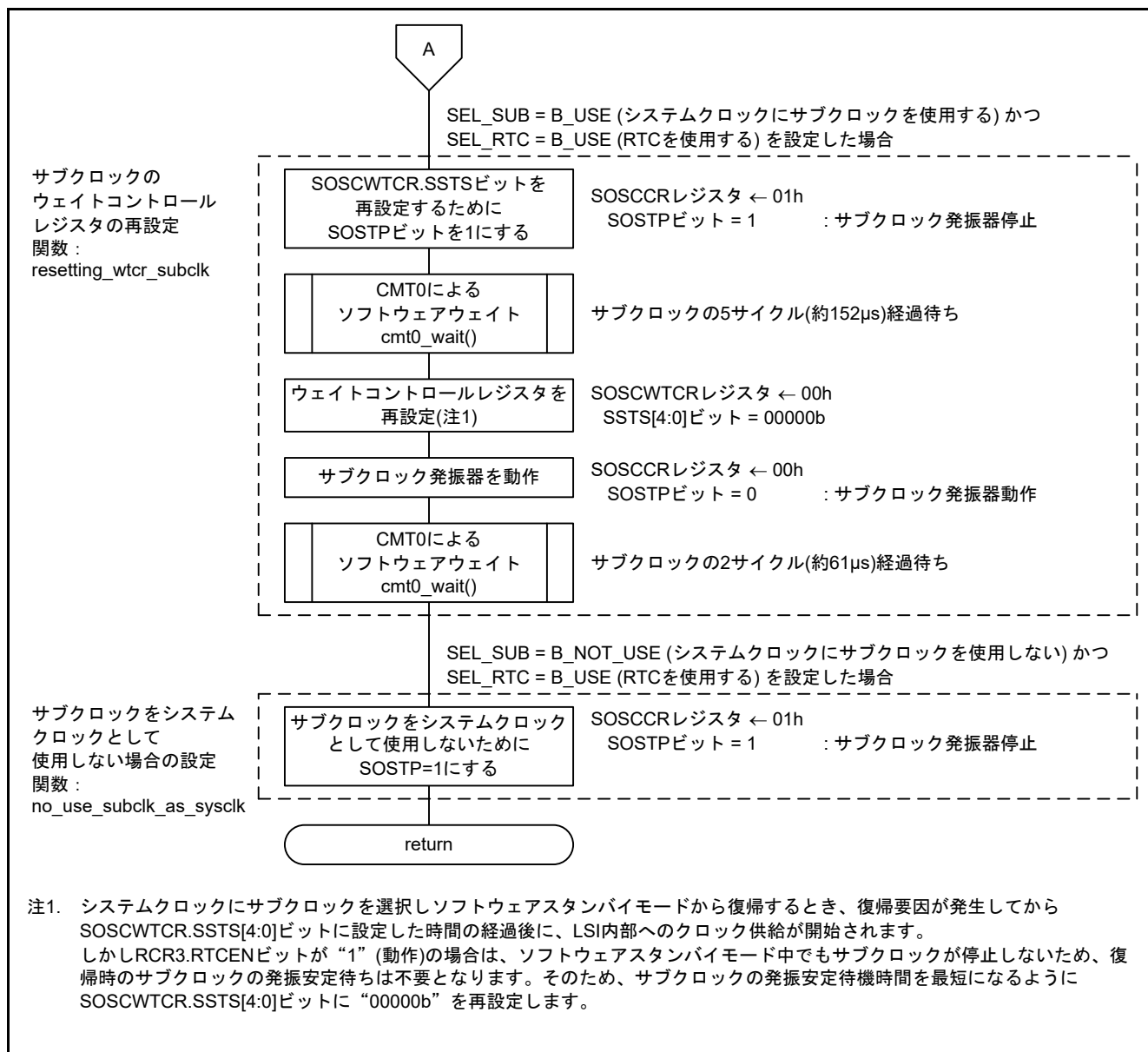


図3.14 サブクロックの発振設定(2/2)

3.9.9 サブクロックの停止設定

図3.13にサブクロックの停止設定のフローチャートを示します。

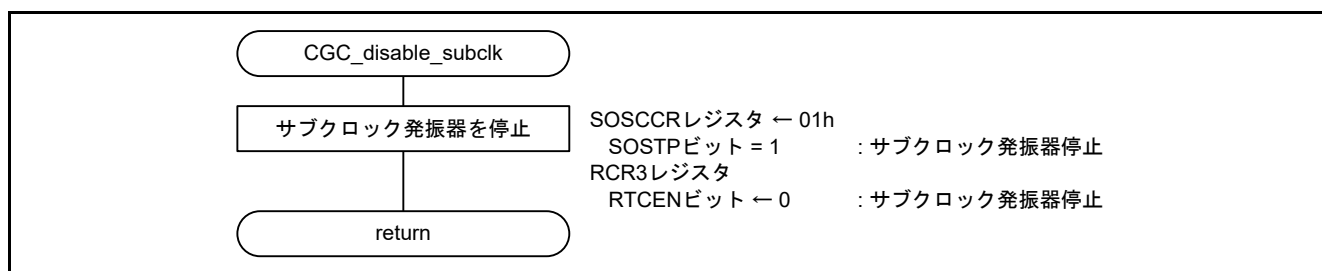


図3.15 サブクロックの停止設定

3.9.10 CMT0によるソフトウェアウェイト

図3.16にCMT0によるソフトウェアウェイトのフローチャートを示します。

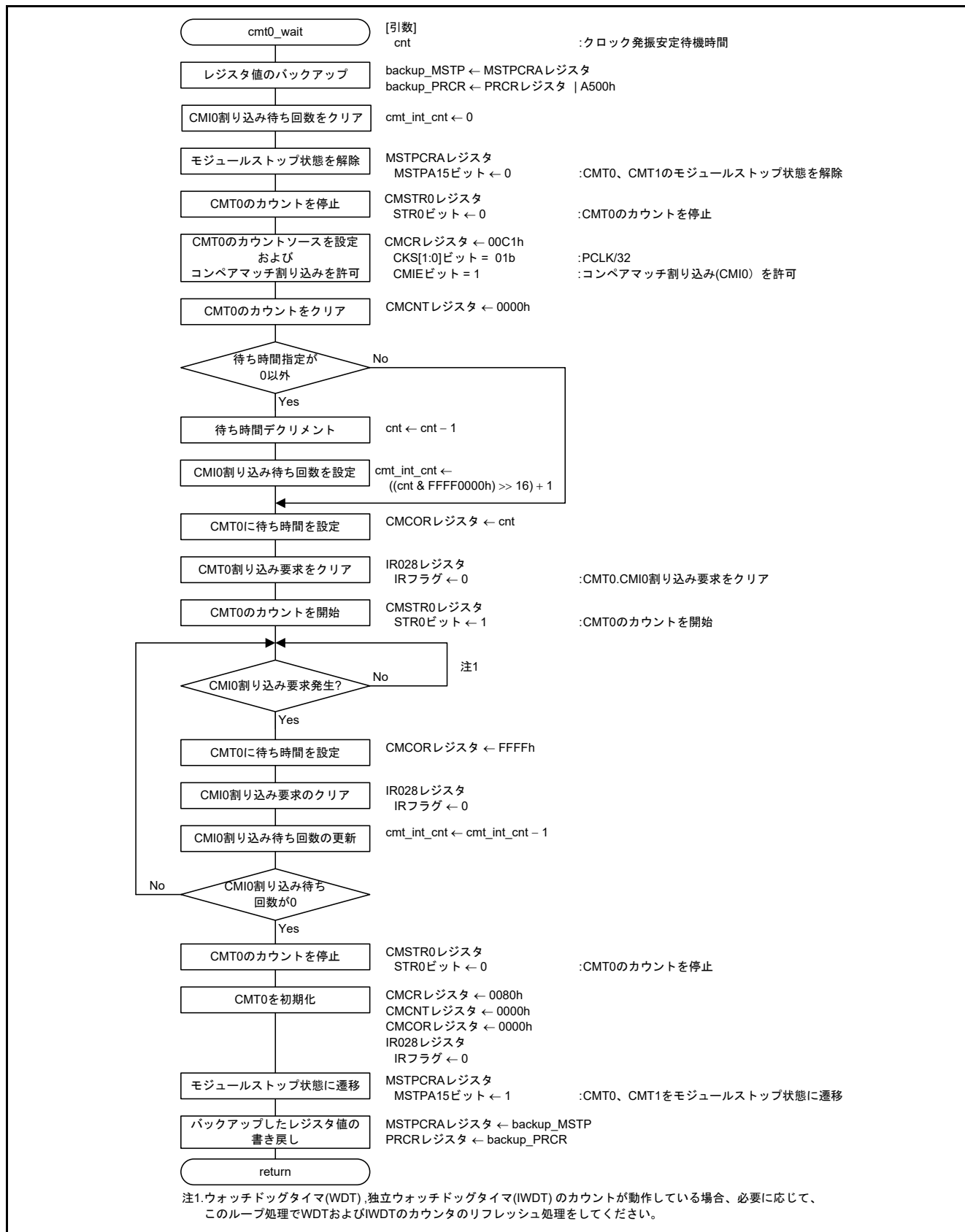


図3.16 CMT0によるソフトウェアウェイト

4. 付録

4.1 クロックの発振安定待機時間の考え方

4.1.1 メインクロックの発振安定を待たずに PLL の発振を行う場合

メインクロックと PLL クロックの発振を行う場合は、メインクロックと PLL クロックの発振安定待機時間をまとめて待つことが可能です。

図4.1にPLLの発振安定待機時間の考え方(メインクロックの発振安定を待たずにPLLの発振を行う場合)、表4.1にPLLのウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値(メインクロックの発振安定を待たずにPLLの発振を行う場合)を示します。

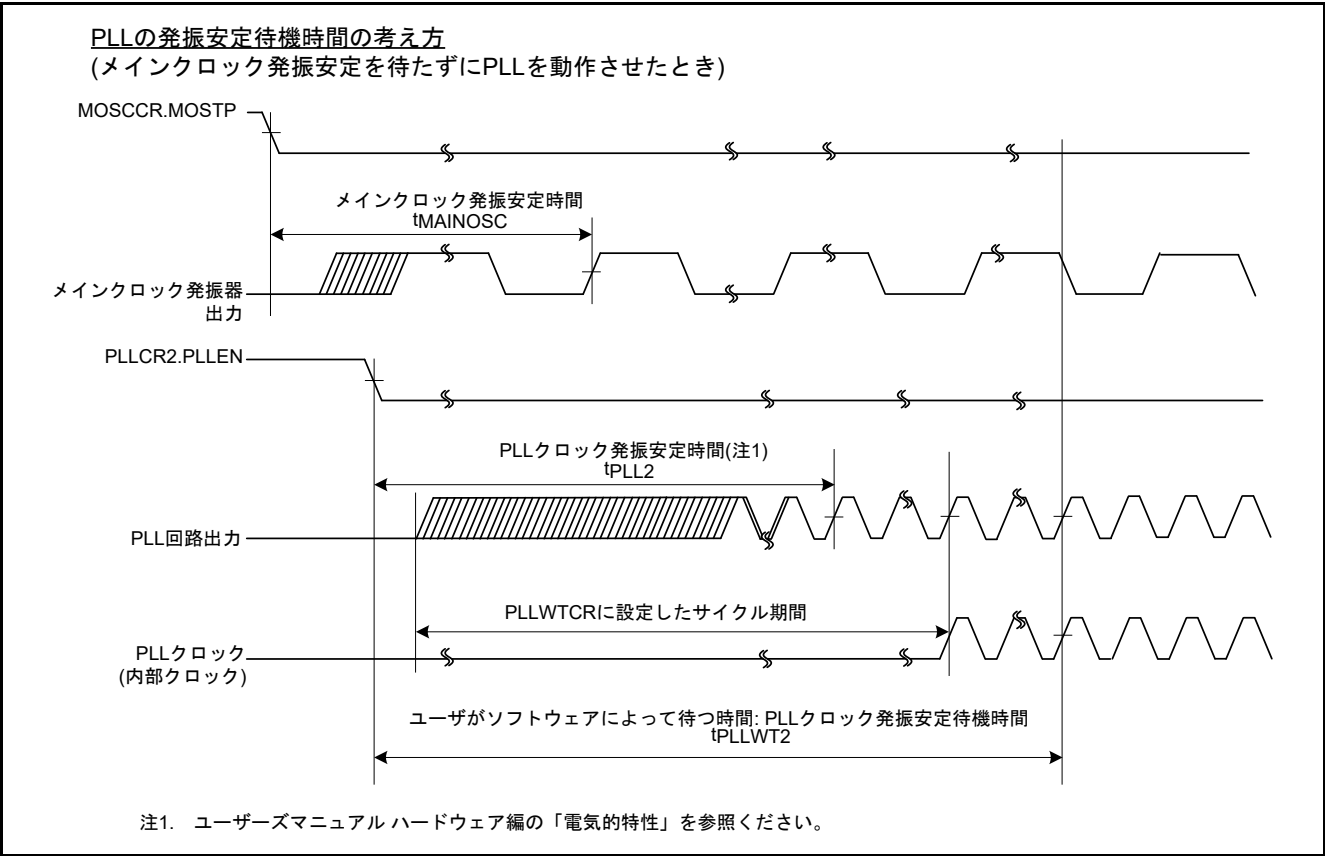


図4.1 PLL の発振安定待機時間の考え方(メインクロックの発振安定を待たずに PLL の発振を行う場合)

表4.1 PLL のウェイトコントロールと発振安定待機時間の算出方法と設定値(メインクロックの発振安定を待たずに PLL の発振を行う場合)

発振安定待機時間	算出方法
ウェイトコントロールレジスタ (PLLWTCR.PSTS)	発振子メーカーが推奨するメインクロックの発振安時間以上の値 + t_{PLL1} (最大 500 μ s)以上の値
発振安定待機時間 (t_{PLLWT2})	PLLWTCR レジスタで設定したサイクル期間の 2 倍以上の値

5. サンプルコード

サンプルコードは、ルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。

6. 参考ドキュメント

ユーザーズマニュアル：ハードウェア

RX210グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.50 (R01UH0037JJ)

(最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

テクニカルアップデート／テクニカルニュース

(最新の情報をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

ユーザーズマニュアル：開発環境

RX ファミリー C/C++コンパイラパッケージ V.1.01 ユーザーズマニュアル Rev.1.00 (R20UT0570JJ)

(最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

ホームページとサポート窓口

ルネサス エレクトロニクスホームページ

<http://japan.renesas.com>

お問合せ先

<http://japan.renesas.com/contact/>

改訂記録	RX210グループ アプリケーションノート 初期設定例
------	-----------------------------

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	Jul.02.12	—	初版発行
2.00	Mar.01.13	—	仕様見直しによる全面改訂 「リセット後に動作している周辺機能の停止」の処理を追加 「存在しないポートの初期設定」および「クロック初期設定」の仕様を変更 チップバージョン A、チップバージョン B、チップバージョン C に対応
2.10	Sep.02.13	—	144,145 ピン版に対応した改訂
		1	要旨 文章の見直し 対象デバイス 145、144 ピン版の記載を追加 Rev.1.00 からの変更を削除
		3	1.1 リセット後に動作している周辺機能の停止 RAM1 の記載を追加 1.2 存在しないポートの設定 100 ピン未満の記載を 144 ピン未満の記載に変更
		7	表 3.1 リセット後にモジュールストップ状態が解除されている周辺モジュール一覧 RAM1 の記載を追加
		8	表 3.2 存在しないポート一覧(1) 144、145 ピンで存在するポート(PORT6,7,8,9,F,K,L)の記載を追加 100 ピン版の一覧を追加 80 ピン版のピン、本数を変更
		9	表 3.3 存在しないポート一覧(2) 64 ピン版、48 ピン版のピン、本数を変更 3.2.2 ピン数の選択方法 144、145 ピン版の記載を追加
		16	3.6 定数一覧 144、145 ピン版の記載を追加
		17	表 3.12 サンプルコードで使用する定数(ユーザ変更可) (2/2) 定数「ROM_SIZE」、注 9 を削除 定数「MSTP_STATE_RAM1」を追加
		18	表 3.13 サンプルコードで使用する定数(ユーザ変更不可) 定数「UPTO_512KB」、「OVER_512KB」を削除
		19	表 3.14 145、144 ピン版(PIN_SIZE=145 または PIN_SIZE=144)の場合での定数 表を追加
		20,21, 22,23	表 3.15 100 ピン版(PIN_SIZE=100)の場合での定数 表 3.16 80 ピン版(PIN_SIZE=80)の場合での定数 表 3.17 64 ピン版(PIN_SIZE=64)の場合での定数 表 3.18 48 ピン版(PIN_SIZE=48)の場合での定数 144、145 ピンで存在するポート(PORT6,7,8,9,F,K,L)の記載を追加
		25,26	3.8 関数仕様 100 ピン未満の記載を 144 ピン未満の記載に変更 Rev.1.00 からの変更を削除

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
2.10	Sep.02.13.	29	図 3.6 リセット後に動作している周辺機能の停止 RAM1 の記載を追加
		30	図 3.7 存在しないポートの初期設定 144、145 ピンで存在するポート(PORT6,7,8,9,F,K,L)の記載を追加
		39	6. 参考ドキュメント ユーザーズマニュアル ハードウェア編 バージョンアップ(1.40)
		—	CMT0 によるソフトウェアウエイトの仕様変更による改訂
		37	図 3.16 CMT0 によるソフトウェアウエイト フローチャートを変更
		—	使用ボード変更による改訂
		6	表 2.1 動作確認条件 使用マイコン: R5F5210BBDFP に変更 lodefine.h のバージョン: バージョンアップ(1.4) サンプルコードのバージョン: バージョンアップ(2.10) 使用ボード: R0K505210C002BE に変更
2.20	Apr.01.14	—	69 ピン版に対応した改訂
		1	69 ピン版に関する記載を追加、100 ピンの最大メモリを 1MB に変更
		6	サンプルコードのバージョンを更新
		9	69 ピン版に関する記載を追加
		16,22	表 3.17 69、64 ピン版(PIN_SIZE=69 または PIN_SIZE=64)の場合 での定数 69 ピン版に関する記載を追加
		35	図 3.13 サブクロックの発振設定(1/2) フローチャートを変更
		37	図 3.16 CMT0 によるソフトウェアウエイト フローチャートを変更
2.21	Feb.1.21	6	表 2.2 の統合開発環境、C コンパイラ、サンプルコードのバージョンを変更
		35	図 3.13 サブクロックの発振設定(2/2)の修正
		40, 41	改訂履歴の日付の形式を修正
		プログラム	テクニカルアップデート TN-RX*-A239B/J に対応

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策

CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。

2. 電源投入時の処置

電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. 電源オフ時における入力信号

当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力ブルアップ電源を入れないでください。入力信号や入出力ブルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。

4. 未使用端子の処理

未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。

5. クロックについて

リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

6. 入力端子の印加波形

入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。

7. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

8. 製品間の相違について

型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違くと、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電氣的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等

当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じて、当社は一切その責任を負いません。

7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア／ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限りません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因またはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア／ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
 8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
 9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
 10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
 11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
 12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします。
 13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
 14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。
- 注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。
- 注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレシア）

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。